

JS02-PDF-001

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・直達外力と介達外力を区別する】「外力が作用した部位に損傷が生じる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. これは介達外力でみられる機序の説明に近い。
- イ. 直達外力という分類は外力の作用様式に基づく。
- ウ. 直達外力では、打撃など外力が直接作用した部位に損傷が生じるのが基本である。
- エ. 直達外力は一回の衝撃でも生じ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「外力が作用した部位から離れた場所だけに損傷が生じる」に関する内容で、今回の「外力が作用した部位に損傷が生じる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「外力を受けなくても必ず発生する」に関する内容で、今回の「外力が作用した部位に損傷が生じる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「外力が作用した部位に損傷が生じる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「反復運動が長期間続いた場合に限って生じる」に関する内容で、今回の「外力が作用した部位に損傷が生じる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「外力が作用した部位に損傷が生じる」が適切である。根拠は、直達外力では、打撃など外力が直接作用した部位に損傷が生じるのが基本である。

JS02-PDF-002

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・介達外力の基本機序を理解する】実習生が「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 皮膚損傷の有無は外力の伝わり方の分類とは別である。
- イ. 作用点に限られるのは直達外力の典型である。
- ウ. 介達外力では力が骨や関節を介して伝わり、作用点から離れた部位に損傷を生じ得る。
- エ. 介達外力は急性外傷でもみられる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「外力の作用点にしか損傷は生じない」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「外力が作用した部位とは離れた部位に損傷が生じることがある」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「慢性損傷にだけ用いる分類である」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」の理由ではない。

総合解説：「皮膚損傷を伴う場合だけ介達外力と呼ぶ」は不適切である。理由は、皮膚損傷の有無は外力の伝わり方の分類とは別である。この論点での適切な判断は「外力が作用した部位とは離れた部位に損傷が生じることがある」である。

JS02-PDF-003

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・開放骨折と閉鎖骨折を区別する】「骨折部が創を介して外界と交通している」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 圧痛は多くの骨折や軟部組織損傷でもみられる。
- イ. 腫脹は閉鎖骨折でもみられる一般的な外傷症状である。
- ウ. 開放骨折では骨折部が創を介して外界と交通していることが定義上重要である。
- エ. 疼痛は開放・閉鎖を問わずみられ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折部に圧痛がある」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通している」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折部に腫脹がある」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通している」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨折部が創を介して外界と交通している」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨折部に疼痛がある」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通している」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨折部が創を介して外界と交通している」が適切である。根拠は、開放骨折では骨折部が創を介して外界と交通していることが定義上重要である。

JS02-PDF-004

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・完全骨折と不全骨折を区別する】実習生が「関節面の位置関係だけが失われる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. これは不全骨折の説明である。
- イ. 完全骨折では骨の連続性が完全に断たれている。
- ウ. これは軟部組織損傷の一例であり、骨折ではない。
- エ. これは脱臼に関する説明であり、骨折の程度とは異なる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨皮質の一部だけが損傷し連続性が残る」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の位置関係だけが失われる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨の連続性が完全に断たれている」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の位置関係だけが失われる」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「靱帯だけが損傷し骨には変化がない」に関する内容で、今回の誤判断「関節面の位置関係だけが失われる」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「関節面の位置関係だけが失われる」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「関節面の位置関係だけが失われる」は不適切である。理由は、これは脱臼に関する説明であり、骨折の程度とは異なる。この論点での適切な判断は「骨の連続性が完全に断たれている」である。

JS02-PDF-005

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・脱臼の定義を理解する】「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. これは完全骨折の説明であり、脱臼の定義ではない。

イ. 脱臼は関節を構成する関節面の正常な位置関係が失われた状態をいう。

ウ. これは神経損傷に関する状態であり、脱臼の定義ではない。

エ. これは筋損傷の説明である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨の連続性が必ず完全に断たれた状態である」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経の伝導が低下した状態である」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「筋線維が部分断裂した状態だけをいう」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「関節面の正常な位置関係が失われた状態である」が適切である。根拠は、脱臼は関節を構成する関節面の正常な位置関係が失われた状態をいう。

JS02-PDF-006

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・捻挫の損傷組織を理解する】実習生が「末梢神経だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 神経損傷を合併することはあるが、捻挫の中心病変ではない。

イ. 捻挫では関節に外力が加わり、靱帯や関節包など支持組織が損傷する。

ウ. 皮膚損傷のみでは捻挫とはいわない。

エ. 捻挫の中心的損傷組織ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「末梢神経だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「関節を支持する靱帯などの軟部組織」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「皮膚だけ」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨髄だけ」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経だけ」の理由ではない。

総合解説：「末梢神経だけ」は不適切である。理由は、神経損傷を合併することはあるが、捻挫の中心病変ではない。この論点での適切な判断は「関節を支持する靱帯などの軟部組織」である。

JS02-PDF-007

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・骨折固有症状と一般外傷症状を区別する】「異常可動性」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腫脹は骨折以外の外傷でもみられる一般外傷症状である。
- イ. 異常可動性は、骨折部で本来みられない動きが生じる骨折固有症状の一つである。
- ウ. 皮下出血も骨折に特異的ではなく、一般外傷症状に含まれる。
- エ. 疼痛は多くの外傷でみられる一般外傷症状である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「腫脹」に関する内容で、今回の「異常可動性」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「異常可動性」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「皮下出血」に関する内容で、今回の「異常可動性」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛」に関する内容で、今回の「異常可動性」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「異常可動性」が適切である。根拠は、異常可動性は、骨折部で本来みられない動きが生じる骨折固有症状の一つである。

JS02-PDF-008

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・一般外傷症状を理解する】実習生が「筋萎縮・拘縮・変形治癒」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 疼痛、腫脹、機能障害などは多くの外傷に共通してみられる一般外傷症状である。
- イ. 主として経過中の二次的変化や後遺症として問題になる所見である。
- ウ. 脱臼に特徴的な所見を含み、一般外傷症状とはいえない。
- エ. これらは骨折に特徴的な所見として扱われる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛・腫脹・機能障害」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮・拘縮・変形治癒」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「筋萎縮・拘縮・変形治癒」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「弾発性固定・関節面の完全離脱・関節変形」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮・拘縮・変形治癒」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「異常可動性・軋轢音・軋位」に関する内容で、今回の誤判断「筋萎縮・拘縮・変形治癒」の理由ではない。

総合解説：「筋萎縮・拘縮・変形治癒」は不適切である。理由は、主として経過中の二次的変化や後遺症として問題になる所見である。この論点での適切な判断は「疼痛・腫脹・機能障害」である。

JS02-PDF-009

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・筋損傷の代表的な機序を理解する】「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. これは開放骨折の特徴である。
- イ. 神経損傷がなくても筋損傷は起こる。
- ウ. これは脱臼の説明であり、筋損傷の発生機序を限定できない。
- エ. 筋損傷は急激な伸張や強い収縮で筋線維や筋腱移行部などに生じ得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨折部と外界が交通することでのみ生じる」に関する内容で、今回の「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「神経伝導が完全に遮断されたときだけ生じる」に関する内容で、今回の「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節面の位置関係が失われることだけで生じる」に関する内容で、今回の「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「急激な伸張や強い筋収縮で筋・筋腱移行部が損傷する」が適切である。根拠は、筋損傷は急激な伸張や強い収縮で筋線維や筋腱移行部などに生じ得る。

JS02-PDF-010

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・腱の機能と損傷時の機能障害を理解する】実習生が「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 関節液産生は滑膜の役割であり、腱の主機能ではない。
- イ. 腱は骨髄形成を担わず、断裂で脈拍が必ず消失するわけではない。
- ウ. 腱は筋収縮力を骨へ伝達するため、断裂すると対応する運動の出力が低下する。
- エ. 腱断裂は骨折そのものを意味しない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「関節液を産生する—断裂すると皮膚感覚だけが消失する」に関する内容で、今回の誤判断「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「筋力を骨へ伝える—断裂すると対応する運動が弱くなる」に関する内容で、今回の誤判断「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「末梢神経を保護する—断裂すると骨の連続性が失われる」に関する内容で、今回の誤判断「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」の理由ではない。

総合解説：「骨髄を形成する—断裂すると脈拍が必ず消失する」は不適切である。理由は、腱は骨髄形成を担わず、断裂で脈拍が必ず消失するわけではない。この論点での適切な判断は「筋力を骨へ伝える—断裂すると対応する運動が弱くなる」である。

JS02-PDF-011

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：損傷概論・末梢神経損傷の基本症状を理解する】「感覚障害と運動障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 末梢神経損傷では支配領域の感覚と支配筋の運動機能を確認することが重要である。

イ. 腫脹だけでは神経損傷の有無を判断できない。

ウ. 神経の感覚・運動機能評価として不十分である。

エ. 全身評価として有用な場合はあるが、末梢神経機能の直接評価にはならない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「感覚障害と運動障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「腫脹の有無だけ」に関する内容で、今回の「感覚障害と運動障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節雑音と皮下脂肪厚だけ」に関する内容で、今回の「感覚障害と運動障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「体温と身長だけ」に関する内容で、今回の「感覚障害と運動障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「感覚障害と運動障害」が適切である。根拠は、末梢神経損傷では支配領域の感覚と支配筋の運動機能を確認することが重要である。

JS02-PDF-012

2-1 基礎理論 > 損傷概論 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：損傷概論・急性外傷と反復負荷による損傷を区別する】実習生が「反復負荷では骨や腱は損傷しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 皮膚創を伴わない過用性損傷は多数ある。

イ. 骨の疲労損傷や腱の過用障害などがある。

ウ. 反復する機械的負荷は組織の回復能力を上回ると過用性損傷につながり得る。

エ. 反復する小外力でも損傷は生じ得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「反復負荷による損傷は必ず皮膚創を伴う」に関する内容で、今回の誤判断「反復負荷では骨や腱は損傷しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「反復負荷では骨や腱は損傷しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「一回では小さい負荷でも反復により組織損傷が蓄積し得る」に関する内容で、今回の誤判断「反復負荷では骨や腱は損傷しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「一回の大外力がない限り運動器損傷は起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「反復負荷では骨や腱は損傷しない」の理由ではない。

総合解説：「反復負荷では骨や腱は損傷しない」は不適切である。理由は、骨の疲労損傷や腱の過用障害などがある。この論点での適切な判断は「一回では小さい負荷でも反復により組織損傷が蓄積し得る」である。

JS02-PDF-013

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：治癒過程・骨折治癒の炎症期を理解する】「炎症反応と血腫形成」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. リモデリングは治癒の後期に進む。
- イ. 成人骨折治癒の一般的過程ではない。
- ウ. 骨折直後には血腫形成と炎症反応が起こり、修復反応の開始点となる。
- エ. 拘縮は治癒に必要な過程ではなく、長期固定などで生じ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「成熟骨への完全なリモデリング」に関する内容で、今回の「炎症反応と血腫形成」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨端線の再形成」に関する内容で、今回の「炎症反応と血腫形成」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「炎症反応と血腫形成」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「関節拘縮の完成」に関する内容で、今回の「炎症反応と血腫形成」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「炎症反応と血腫形成」が適切である。根拠は、骨折直後には血腫形成と炎症反応が起こり、修復反応の開始点となる。

JS02-PDF-014

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：治癒過程・軟仮骨の役割を理解する】実習生が「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 軟仮骨は線維性・軟骨性組織を含み、骨折部を橋渡しして次の骨形成へつなげる。
- イ. 軟仮骨は骨折治癒過程の組織である。
- ウ. 成熟骨への再構築は後のリモデリングで進む。
- エ. 軟仮骨は神経髄鞘形成を目的としない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折部に初期の安定性を与え、硬仮骨形成への足場となる」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「関節面を脱臼位に保持する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「末梢神経の髄鞘だけを形成する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」の理由ではない。

総合解説：「骨折部を完全に元の皮質骨へ直ちに置換する」は不適切である。理由は、成熟骨への再構築は後のリモデリングで進む。この論点での適切な判断は「骨折部に初期の安定性を与え、硬仮骨形成への足場となる」である。

JS02-PDF-015

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：治癒過程・硬仮骨形成期を理解する】「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 治癒には生物学的・力学的条件が影響する。

イ. 硬仮骨形成期では骨形成が進む。

ウ. 硬仮骨形成では仮骨が骨化し、機械的強度が高まっていく。

エ. 硬仮骨は骨折部の骨性修復に関する用語である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折端の接触がなくても直ちに正常骨へ戻る」に関する内容で、今回の「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「炎症反応だけが続き骨形成は起こらない」に関する内容で、今回の「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「皮膚創の閉鎖だけを意味する」に関する内容で、今回の「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「軟仮骨が石灰化・骨化し、骨性の連続性が高まる」が適切である。根拠は、硬仮骨形成では仮骨が骨化し、機械的強度が高まっていく。

JS02-PDF-016

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：治癒過程・骨リモデリングを理解する】実習生が「受傷直後数分で終了する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. リモデリングは臨床的骨癒合後も継続し得る。

イ. リモデリングは治癒後期に長期間かけて進む。

ウ. 骨芽細胞・破骨細胞などの骨代謝も関与する。

エ. リモデリングでは仮骨が時間をかけて再構築され、骨の形態と強度が整っていく。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定が不要になる前に必ず完全終了する」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後数分で終了する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「受傷直後数分で終了する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「炎症細胞だけで骨の形態が決まる」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後数分で終了する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「力学的負荷に適応しながら骨の形態と構造が徐々に再構築される」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後数分で終了する」の理由ではない。

総合解説：「受傷直後数分で終了する」は不適切である。理由は、リモデリングは治癒後期に長期間かけて進む。この論点での適切な判断は「力学的負荷に適応しながら骨の形態と構造が徐々に再構築される」である。

JS02-PDF-017

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：治癒過程・骨癒合と力学的安定性の関係を理解する】「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 必要な整復位や安定性の維持は治癒に重要である。
- イ. 治癒段階を無視した負荷増加は適切でない。
- ウ. 過度の骨折端運動は骨癒合を妨げることがある。
- エ. 過度の不安定性は治癒を妨げ得る一方、治癒様式に応じた適切な安定性が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「整復位を維持しないこと」に関する内容で、今回の「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が強いほど運動を増やすこと」に関する内容で、今回の「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折端を常に大きく動かすこと」に関する内容で、今回の「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「骨折型と治療法に応じた適切な安定性が確保されること」が適切である。根拠は、過度の不安定性は治癒を妨げ得る一方、治癒様式に応じた適切な安定性が重要である。

JS02-PDF-018

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：治癒過程・骨折治癒の不適条件を理解する】実習生が「適切な栄養状態」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染や血流不良は修復組織の形成を妨げ、骨癒合遅延の重要な要因となる。
- イ. 適切な整復と安定性は治癒を支える。
- ウ. 栄養状態が保たれていることは治癒に有利である。
- エ. 十分な血流は治癒に有利な条件である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「感染や著しい血流障害」に関する内容で、今回の誤判断「適切な栄養状態」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「良好な整復位と安定性」に関する内容で、今回の誤判断「適切な栄養状態」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「適切な栄養状態」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「適切な血流」に関する内容で、今回の誤判断「適切な栄養状態」の理由ではない。

総合解説：「適切な栄養状態」は不適切である。理由は、栄養状態が保たれていることは治癒に有利である。この論点での適切な判断は「感染や著しい血流障害」である。

JS02-PDF-019

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：治癒過程・骨癒合異常を区別する】「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. いずれも正常経過から外れた骨癒合異常である。
- イ. 経過をみて骨癒合が成立しない状態として判断される。
- ウ. 遷延治癒は治癒が遅れている状態である。
- エ. 両者は骨癒合異常だが、遷延治癒は遅延、偽関節は癒合不成立として区別される。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「両者は正常な治癒過程の同義語である」に関する内容で、今回の「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「偽関節は必ず受傷当日に診断できる」に関する内容で、今回の「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「遷延治癒では骨癒合は絶対に起こらない」に関する内容で、今回の「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「遷延治癒は治癒が遅れている状態で、偽関節は骨癒合が成立しない状態として扱う」が適切である。根拠は、両者は骨癒合異常だが、遷延治癒は遅延、偽関節は癒合不成立として区別される。

JS02-PDF-020

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：治癒過程・筋損傷の治癒機序を理解する】実習生が「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 筋損傷治癒は再生と瘢痕形成の組合せで進む。
- イ. 急性筋損傷では出血や炎症反応を伴い得る。
- ウ. 過負荷や不適切な伸張は再損傷要因となる。
- エ. 筋損傷後は筋線維の再生に加え、損傷程度に応じて結合組織性の瘢痕形成も関与する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「血腫や炎症は一切生じない」に関する内容で、今回の誤判断「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「治癒中は力学的条件の影響を受けない」に関する内容で、今回の誤判断「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「筋線維の再生と瘢痕形成の双方が関与する」に関する内容で、今回の誤判断「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」の理由ではない。

総合解説：「損傷した筋は必ず完全に線維軟骨だけへ置換される」は不適切である。理由は、筋損傷治癒は再生と瘢痕形成の組合せで進む。この論点での適切な判断は「筋線維の再生と瘢痕形成の双方が関与する」である。

JS02-PDF-021

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：治癒過程・腱・靱帯治癒の基本を理解する】「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 治癒段階に応じた負荷管理が重要である。

イ. 腱・靱帯では修復組織のコラーゲンが成熟・再配列し、徐々に力学的強度が増す。

ウ. 修復組織の強度回復には時間が必要である。

エ. 腱・靱帯の修復では瘢痕組織形成が関与する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「治癒中の負荷量は組織の状態と無関係でよい」に関する内容で、今回の「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「受傷直後から正常組織と同じ強度になる」に関する内容で、今回の「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「瘢痕形成は一切関与しない」に関する内容で、今回の「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「コラーゲン線維は時間とともに再配列し、段階的に強度が高まる」が適切である。根拠は、腱・靱帯では修復組織のコラーゲンが成熟・再配列し、徐々に力学的強度が増す。

JS02-PDF-022

2-1 基礎理論 > 治癒過程 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：治癒過程・末梢神経損傷の回復特性を理解する】実習生が「感覚障害だけで運動障害は起こらない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷型や距離、年齢などにより回復経過は異なる。

イ. 末梢神経損傷は損傷の程度や軸索・神経鞘の連続性によって自然回復の見込みが異なる。

ウ. 運動線維が障害されれば筋力低下や麻痺が起こり得る。

エ. 感覚・運動機能の経時的評価が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「すべての神経損傷は同じ速度で完全回復する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害だけで運動障害は起こらない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「神経の連続性や損傷程度により回復可能性が大きく異なる」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害だけで運動障害は起こらない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「感覚障害だけで運動障害は起こらない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「神経損傷は治癒過程の評価を必要としない」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害だけで運動障害は起こらない」の理由ではない。

総合解説：「感覚障害だけで運動障害は起こらない」は不適切である。理由は、運動線維が障害されれば筋力低下や麻痺が起こり得る。この論点での適切な判断は「神経の連続性や損傷程度により回復可能性が大きく異なる」である。

JS02-PDF-023

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定原理・固定の目的を理解する】「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 必要範囲を適切に固定し、不要な拘縮を避ける。
- イ. 固定の基本目的と逆である。
- ウ. 固定は損傷部の保護、疼痛軽減、整復位・安定性の維持などを目的とする。
- エ. 固定前後の神経・血管評価は重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「全身の関節を長期間動かなくする」に関する内容で、今回の「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「損傷部を意図的に不安定にする」に関する内容で、今回の「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「神経・血管の観察を不要にする」に関する内容で、今回の「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷部を保護し、必要な整復位や安定性を維持する」が適切である。根拠は、固定は損傷部の保護、疼痛軽減、整復位・安定性の維持などを目的とする。

JS02-PDF-024

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定原理・急性期固定と腫脹管理を理解する】実習生が「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 過度の圧迫は循環・神経障害を起こし得る。
- イ. 組織状態に応じた調整が必要である。
- ウ. 急性期は腫脹が変化するため、循環障害を起こさないよう圧迫に注意する。
- エ. 疼痛増悪や神経血管症状があれば再評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を確認せず強く締め上げる」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腫脹に関係なく固定を毎回同じ強さにする」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「腫脹変化を考慮し、過度な圧迫を避けながら安定性を確保する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「疼痛が増しても固定を絶対に変更しない」は不適切である。理由は、疼痛増悪や神経血管症状があれば再評価する。この論点での適切な判断は「腫脹変化を考慮し、過度な圧迫を避けながら安定性を確保する」である。

JS02-PDF-025

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定原理・外固定範囲の原則を理解する】「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷部の保護が必要である。
- イ. 腫脹や治癒段階なども考慮する。
- ウ. 固定範囲は損傷ごとに異なる。
- エ. 固定範囲は損傷型、部位、安定性などに応じて設定し、過不足を避ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛部位を避けて損傷部は固定しない」に関する内容で、今回の「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「固定範囲は患者の状態にかかわらず一定である」に関する内容で、今回の「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「どの損傷でも必ず全肢を固定する」に関する内容で、今回の「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「損傷部位と安定性を考慮し、必要な範囲だけを固定する」が適切である。根拠は、固定範囲は損傷型、部位、安定性などに応じて設定し、過不足を避ける。

JS02-PDF-026

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定原理・固定肢位の決定原則を理解する】実習生が「常に関節を最大可動域まで強制する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 部位や損傷型により適切な肢位は異なる。
- イ. 無理な肢位は再損傷や神経血管障害の原因となり得る。
- ウ. 患者の状態を考慮する必要がある。
- エ. 固定肢位は損傷型に応じ、整復位維持、組織保護、機能への影響を考えて決定する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「どの損傷でも同じ肢位にする」に関する内容で、今回の誤判断「常に関節を最大可動域まで強制する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「常に関節を最大可動域まで強制する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛や腫脹を無視して決める」に関する内容で、今回の誤判断「常に関節を最大可動域まで強制する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「整復位の維持と組織保護を考慮した肢位を選択する」に関する内容で、今回の誤判断「常に関節を最大可動域まで強制する」の理由ではない。

総合解説：「常に関節を最大可動域まで強制する」は不適切である。理由は、無理な肢位は再損傷や神経血管障害の原因となり得る。この論点での適切な判断は「整復位の維持と組織保護を考慮した肢位を選択する」である。

JS02-PDF-027

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定原理・固定期間の決定因子を理解する】「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 長期固定には拘縮や筋萎縮などの問題がある。
- イ. 固定期間は一律ではなく、治癒速度や損傷の安定性など複数因子で判断する。
- ウ. 損傷の種類や治癒経過で異なる。
- エ. 年齢や部位は治癒経過に影響し得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛がある限り永久に固定する」に関する内容で、今回の「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「すべての損傷で必ず同じ日数にする」に関する内容で、今回の「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「受傷年齢や損傷部位は考慮しない」に関する内容で、今回の「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷組織、部位、年齢、安定性、治癒経過などを考慮して決める」が適切である。根拠は、固定期間は一律ではなく、治癒速度や損傷の安定性など複数因子で判断する。

JS02-PDF-028

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定原理・圧迫障害を予防する固定原理を理解する】実習生が「疼痛が出ても固定を再評価しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定中は皮膚障害の徴候にも注意する。
- イ. 局所痛や灼熱感は圧迫障害の可能性がある。
- ウ. 骨突出部は圧迫障害を起こしやすいため、適切なパッドと成形が重要である。
- エ. 皮膚障害や神経障害の原因になり得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮膚状態を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が出ても固定を再評価しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「疼痛が出ても固定を再評価しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「適切なパッドを用い局所圧迫を減らす」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が出ても固定を再評価しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「突出部だけを意図的に強く圧迫する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛が出ても固定を再評価しない」の理由ではない。

総合解説：「疼痛が出ても固定を再評価しない」は不適切である。理由は、局所痛や灼熱感は圧迫障害の可能性がある。この論点での適切な判断は「適切なパッドを用い局所圧迫を減らす」である。

JS02-PDF-029

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定原理・固定による神経血管障害を予防する】「末梢の循環・感覚・運動機能」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定による局所神経血管障害の確認には直結しない。
- イ. 末梢循環・感覚評価が欠けている。
- ウ. 固定直後の安全確認として優先度が低い。
- エ. 固定による二次的な神経・血管障害を見逃さないため、末梢循環、感覚、運動を前後で確認する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「身長・体重・視力」に関する内容で、今回の「末梢の循環・感覚・運動機能」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「体脂肪率・握力だけ」に関する内容で、今回の「末梢の循環・感覚・運動機能」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「利き手・睡眠時間・食事回数」に関する内容で、今回の「末梢の循環・感覚・運動機能」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「末梢の循環・感覚・運動機能」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「末梢の循環・感覚・運動機能」が適切である。根拠は、固定による二次的な神経・血管障害を見逃さないため、末梢循環、感覚、運動を前後で確認する。

JS02-PDF-030

2-1 基礎理論 > 固定原理 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定原理・固定の弊害を理解する】実習生が「関節可動域が必ず増加する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 不動は可動域低下や拘縮の原因となり得る。
- イ. 長ければ長いほど有利とは限らない。
- ウ. 不動ではむしろ廃用性筋萎縮が生じやすい。
- エ. 長期不動は関節可動域低下、軟部組織短縮、筋萎縮などを招き得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「関節可動域が必ず増加する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず骨癒合が速くなる」に関する内容で、今回の誤判断「関節可動域が必ず増加する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力が自動的に増加する」に関する内容で、今回の誤判断「関節可動域が必ず増加する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「関節拘縮や筋萎縮」に関する内容で、今回の誤判断「関節可動域が必ず増加する」の理由ではない。

総合解説：「関節可動域が必ず増加する」は不適切である。理由は、不動は可動域低下や拘縮の原因となり得る。この論点での適切な判断は「関節拘縮や筋萎縮」である。

JS02-PDF-031

2-2 評価 > 問診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・患者確認の重要性を理解する】「患者本人であることと基本情報」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. スポーツ歴は関連情報だが本人確認より先ではない。
- イ. 画像情報だけでは患者確認や病歴聴取の代わりにならない。
- ウ. 患者確認は安全な診療・施術の基本であり、氏名などで本人確認を行う。
- エ. 施術法を決める前に患者確認と情報収集が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「スポーツ歴だけ」に関する内容で、今回の「患者本人であることと基本情報」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「画像検査結果だけ」に関する内容で、今回の「患者本人であることと基本情報」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「患者本人であることと基本情報」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「最終的な施術法だけ」に関する内容で、今回の「患者本人であることと基本情報」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「患者本人であることと基本情報」が適切である。根拠は、患者確認は安全な診療・施術の基本であり、氏名などで本人確認を行う。

JS02-PDF-032

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・主訴を適切に聴取する】実習生が「施術者が推測した診断名だけを記録する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 主訴は患者の訴えであり、診断名とは区別する。
- イ. 現在の受診理由を把握することが基本である。
- ウ. 主訴は受診理由となった中心的な訴えであり、患者の表現を尊重して把握する。
- エ. 主訴は腫脹、しびれ、動作困難なども含み得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「施術者が推測した診断名だけを記録する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「既往歴だけを聞いて現在の症状は聞かない」に関する内容で、今回の誤判断「施術者が推測した診断名だけを記録する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者が最も困っている症状を患者の言葉で確認する」に関する内容で、今回の誤判断「施術者が推測した診断名だけを記録する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「痛みがあるかどうかだけを一律に聞く」に関する内容で、今回の誤判断「施術者が推測した診断名だけを記録する」の理由ではない。

総合解説：「施術者が推測した診断名だけを記録する」は不適切である。理由は、主訴は患者の訴えであり、診断名とは区別する。この論点での適切な判断は「患者が最も困っている症状を患者の言葉で確認する」である。

JS02-PDF-033

2-2 評価 > 問診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・受傷機転から損傷を推定する】「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 事務情報とは別の臨床的目的である。

イ. 受傷機転だけで診断が確定するとは限らない。

ウ. 受傷機転は損傷部位や組織、重症度を推定する重要な情報である。

エ. 受傷機転聴取の主目的ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「保険証の番号を確認するため」に関する内容で、今回の「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「必ず診断を確定するため」に関する内容で、今回の「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患者の性格を評価するため」に関する内容で、今回の「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「外力の方向や大きさを推定し、損傷組織を考えるため」が適切である。根拠は、受傷機転は損傷部位や組織、重症度を推定する重要な情報である。

JS02-PDF-034

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・受傷からの時間経過を評価に活用する】実習生が「患者の身長を推定できる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 時刻だけで骨折を確定できない。

イ. 感覚・運動所見などが必要である。

ウ. 受傷時刻から身長は推定できない。

エ. 受傷からの経過時間は腫脹、疼痛、炎症反応などの推移を判断する基礎情報となる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折の有無を必ず確定できる」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長を推定できる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「神経支配を直接同定できる」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長を推定できる」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「患者の身長を推定できる」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「症状や腫脹の時間的変化を評価する手掛かりになる」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長を推定できる」の理由ではない。

総合解説：「患者の身長を推定できる」は不適切である。理由は、受傷時刻から身長は推定できない。この論点での適切な判断は「症状や腫脹の時間的変化を評価する手掛かりになる」である。

JS02-PDF-035

2-2 評価 > 問診 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・疼痛を系統的に聴取する】「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 有無だけでは病態の推定に十分でない。
- イ. 疼痛は複数の側面を系統的に聴取することで病態推定に役立つ。
- ウ. 疼痛の部位・性状・経過などの把握が必要である。
- エ. 職業は背景情報だが疼痛の性状評価にはならない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「痛みの有無だけ」に関する内容で、今回の「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「身長と体重だけ」に関する内容で、今回の「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者の職業だけ」に関する内容で、今回の「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「部位、性状、強さ、出現時期、増悪・軽減因子」が適切である。根拠は、疼痛は複数の側面を系統的に聴取することで病態推定に役立つ。

JS02-PDF-036

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・既往歴の臨床的意義を理解する】実習生が「現在の症状とは無関係なので確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 既往歴は鑑別や治癒予測、安全な施術判断に影響する。
- イ. 本人の過去の疾病・外傷などを中心に確認する。
- ウ. 既往歴は診察所見を置き換えるものではない。
- エ. 既往歴は現在の病態や治療選択に関係することがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「今回の症状に影響する既存疾患や過去の損傷を把握するため」に関する内容で、今回の誤判断「現在の症状とは無関係なので確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「家族の職業を確認することだけが目的である」に関する内容で、今回の誤判断「現在の症状とは無関係なので確認しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「診察所見を省略するため」に関する内容で、今回の誤判断「現在の症状とは無関係なので確認しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「現在の症状とは無関係なので確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「現在の症状とは無関係なので確認しない」は不適切である。理由は、既往歴は現在の病態や治療選択に関係することがある。この論点での適切な判断は「今回の症状に影響する既存疾患や過去の損傷を把握するため」である。

JS02-PDF-037

2-2 評価 > 問診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・再損傷リスクを問診から評価する】「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 既往外傷は組織の脆弱性や不安定性、可動域制限などに関係し得る。
- イ. 外傷歴の主目的ではない。
- ウ. 外傷歴だけで手術適応は決まらない。
- エ. 再発・再損傷の評価に重要なことがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「患者の年齢を推定するためだけ」に関する内容で、今回の「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず手術適応を決めるため」に関する内容で、今回の「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「過去の外傷は現在の評価に影響しないため」に関する内容で、今回の「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「再損傷や慢性不安定性などの可能性を考慮するため」が適切である。根拠は、既往外傷は組織の脆弱性や不安定性、可動域制限などに関係し得る。

JS02-PDF-038

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・基礎疾患と治癒の関連を理解する】実習生が「利き手のみ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 利き手は機能評価に役立つが骨癒合リスクの中心情報ではない。
- イ. 骨質や創傷治癒に影響する疾患は、損傷の発生や治癒経過に関係し得る。
- ウ. 骨癒合との関連性は乏しい。
- エ. 骨癒合に関係する臨床情報ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「利き手のみ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨粗鬆症や糖尿病などの基礎疾患」に関する内容で、今回の誤判断「利き手のみ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「髪の色」に関する内容で、今回の誤判断「利き手のみ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「靴の色」に関する内容で、今回の誤判断「利き手のみ」の理由ではない。

総合解説：「利き手のみ」は不適切である。理由は、利き手は機能評価に役立つが骨癒合リスクの中心情報ではない。この論点での適切な判断は「骨粗鬆症や糖尿病などの基礎疾患」である。

JS02-PDF-039

2-2 評価 > 問診 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・服薬歴が外傷評価に与える影響を理解する】「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 薬剤歴と利き手は別の情報である。
- イ. 薬剤歴から骨長は決まらない。
- ウ. 抗凝固薬などは外傷後の出血傾向や血腫形成に影響し得る。
- エ. 服薬確認の目的ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「患者の利き手を判断するため」に関する内容で、今回の「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨の長さを決めるため」に関する内容で、今回の「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「関節可動域を直接増加させるため」に関する内容で、今回の「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「出血や血腫の程度に影響する可能性があるため」が適切である。根拠は、抗凝固薬などは外傷後の出血傾向や血腫形成に影響し得る。

JS02-PDF-040

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・安全管理としてアレルギー歴を確認する】実習生が「受傷機転を確定するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. アレルギー歴から受傷機転は確定できない。
- イ. アレルギー歴は安全な対応のために把握すべき基本情報である。
- ウ. アレルギー歴は関節安定性検査ではない。
- エ. 骨折線は外力や骨の状態などに左右される。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「受傷機転を確定するため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「使用物品や薬剤等による有害反応を避けるため」に関する内容で、今回の誤判断「受傷機転を確定するため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節の安定性を直接測定するため」に関する内容で、今回の誤判断「受傷機転を確定するため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折線の方角を決めるため」に関する内容で、今回の誤判断「受傷機転を確定するため」の理由ではない。

総合解説：「受傷機転を確定するため」は不適切である。理由は、アレルギー歴から受傷機転は確定できない。この論点での適切な判断は「使用物品や薬剤等による有害反応を避けるため」である。

JS02-PDF-041

2-2 評価 > 問診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・家族歴の意義を理解する】「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 固定圧は局所所見や神経血管状態をみて調整する。

イ. 家族歴は現在の症状に関連する背景因子を把握する一助となる。

ウ. 筋力評価には徒手筋力検査などを用いる。

エ. 末梢脈拍は身体診察で確認する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定の圧迫を調整するため」に関する内容で、今回の「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「筋力を直接数値化するため」に関する内容で、今回の「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「受傷直後の末梢脈拍を測定するため」に関する内容で、今回の「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「遺伝的・家族性要因が関与する疾患の可能性を考えるため」が適切である。根拠は、家族歴は現在の症状に関連する背景因子を把握する一助となる。

JS02-PDF-042

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・生活・活動背景を損傷評価に結び付ける】実習生が「診察室の室温だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 生活様式の聴取ではない。

イ. 生活・活動内容は反復負荷や復帰目標、再発要因の把握に役立つ。

ウ. 患者の生活様式評価とは無関係である。

エ. 生活様式の聴取内容ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「固定材料の製造年月日だけ」に関する内容で、今回の誤判断「診察室の室温だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「職業、スポーツ、日常動作など症状に関係する活動」に関する内容で、今回の誤判断「診察室の室温だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「施術者の勤務時間」に関する内容で、今回の誤判断「診察室の室温だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「診察室の室温だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「診察室の室温だけ」は不適切である。理由は、生活様式の聴取内容ではない。この論点での適切な判断は「職業、スポーツ、日常動作など症状に関係する活動」である。

JS02-PDF-043

2-2 評価 > 問診 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：問診・問診から緊急性の高い所見を拾い上げる】「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 循環障害は疼痛の有無だけでは除外できない。

イ. しびれや冷感の増悪は神経・血管障害を示す可能性があり、緊急性を考慮した評価が必要である。

ウ. 神経血管障害を見逃す危険がある。

エ. まず神経血管状態と固定の影響を評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「痛みがなければ循環評価は不要とする」に関する内容で、今回の「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「症状は必ず軽症なので数日間評価しない」に関する内容で、今回の「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「問診だけで固定を強く締め直す」に関する内容で、今回の「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「神経・血管障害の可能性を考え、速やかに状態を確認する」が適切である。根拠は、しびれや冷感の増悪は神経・血管障害を示す可能性があり、緊急性を考慮した評価が必要である。

JS02-PDF-044

2-2 評価 > 問診 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：問診・共感的で効率的な医療面接を行う】実習生が「質問せず外観だけで病歴を決める」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 患者から必要な情報を得にくくなる。

イ. 病歴聴取は外観評価だけでは代替できない。

ウ. 重要な情報を取りこぼす可能性がある。

エ. 開かれた質問で全体像を把握し、必要に応じて閉じた質問で詳細を確認する方法が有効である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「最初から施術者の推測だけを一方的に伝える」に関する内容で、今回の誤判断「質問せず外観だけで病歴を決める」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「質問せず外観だけで病歴を決める」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「患者の返答を途中で遮り続ける」に関する内容で、今回の誤判断「質問せず外観だけで病歴を決める」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「最初は開かれた質問で自由に話してもらい、その後に焦点を絞る」に関する内容で、今回の誤判断「質問せず外観だけで病歴を決める」の理由ではない。

総合解説：「質問せず外観だけで病歴を決める」は不適切である。理由は、病歴聴取は外観評価だけでは代替できない。この論点での適切な判断は「最初は開かれた質問で自由に話してもらい、その後に焦点を絞る」である。

JS02-PDF-045

2-2 評価 > 視診触診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：視診触診・全身観察の意義を理解する】「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 姿勢観察は神経伝導速度検査ではない。

イ. 姿勢観察は疼痛や機能障害に伴う代償姿勢、荷重の偏りを捉えるのに役立つ。

ウ. 姿勢から血糖値は判断できない。

エ. 皮膚上から骨折線そのものを直接確認することはできない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末梢神経伝導速度を測るため」に関する内容で、今回の「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「血糖値を推定するため」に関する内容で、今回の「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折線を直接見るため」に関する内容で、今回の「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛回避姿勢や荷重の偏りなどを把握するため」が適切である。根拠は、姿勢観察は疼痛や機能障害に伴う代償姿勢、荷重の偏りを捉えるのに役立つ。

JS02-PDF-046

2-2 評価 > 視診触診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：視診触診・歩行から機能障害を把握する】実習生が「皮膚温だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 皮膚温は触診などで評価するが歩行観察そのものではない。

イ. 歩容の評価項目ではない。

ウ. 歩行観察の中心項目ではない。

エ. 外傷後は疼痛回避や筋力低下により歩容が変化するため左右差を観察する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「皮膚温だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「聴力だけ」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚温だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「瞳孔径だけ」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚温だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「患側への荷重回避や歩幅・立脚時間の左右差」に関する内容で、今回の誤判断「皮膚温だけ」の理由ではない。

総合解説：「皮膚温だけ」は不適切である。理由は、皮膚温は触診などで評価するが歩行観察そのものではない。この論点での適切な判断は「患側への荷重回避や歩幅・立脚時間の左右差」である。

JS02-PDF-047

2-2 評価 > 視診触診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：視診触診・腫脹・皮下出血の視診意義を理解する】「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腫脹や皮下出血の分布は損傷部位や経過を考える材料となる。
- イ. 固定期間は多くの要因で決まる。
- ウ. 腫脹・皮下出血は骨折以外でもみられる。
- エ. 神経評価には感覚・運動検査が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「固定期間を一意に決定できるため」に関する内容で、今回の「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「それだけで骨折を必ず確定できるため」に関する内容で、今回の「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「神経障害を完全に除外できるため」に関する内容で、今回の「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷範囲や出血の程度を推定する手掛かりになるため」が適切である。根拠は、腫脹や皮下出血の分布は損傷部位や経過を考える材料となる。

JS02-PDF-048

2-2 評価 > 視診触診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：視診触診・変形の視診方法を理解する】実習生が「衣服の上からしか観察しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 健側比較は変形や腫脹、アライメント異常を把握する基本である。
- イ. 複数方向と健側比較が有用である。
- ウ. 必要に応じ患部を適切に露出する。
- エ. 損傷を悪化させる危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「健側と比較し、軸や輪郭の左右差を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「衣服の上からしか観察しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患側だけを一方向から見る」に関する内容で、今回の誤判断「衣服の上からしか観察しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「衣服の上からしか観察しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「強く動かして変形を増強させる」に関する内容で、今回の誤判断「衣服の上からしか観察しない」の理由ではない。

総合解説：「衣服の上からしか観察しない」は不適切である。理由は、必要に応じ患部を適切に露出する。この論点での適切な判断は「健側と比較し、軸や輪郭の左右差を確認する」である。

JS02-PDF-049

2-2 評価 > 視診触診 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：視診触診・圧痛を安全に評価する】「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 圧痛は必要以上に強く刺激せず、比較しながら系統的に評価する。
- イ. 疼痛や損傷を増悪させる可能性がある。
- ウ. 周囲組織や健側との比較が有用である。
- エ. 患者の反応は重要な所見である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「最初から最大圧で患部を押す」に関する内容で、今回の「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患部以外を触れず一点だけで判断する」に関する内容で、今回の「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者の痛みの訴えを無視する」に関する内容で、今回の「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「患者の反応を確認しながら系統的に圧迫し、圧痛点を局在化する」が適切である。根拠は、圧痛は必要以上に強く刺激せず、比較しながら系統的に評価する。

JS02-PDF-050

2-2 評価 > 視診触診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：視診触診・局所熱感を比較評価する】実習生が「視診だけで必ず判断する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 左右比較は局所評価に有用である。
- イ. 摩擦で皮膚温が変化し評価を歪める。
- ウ. 局所熱感健側比較により炎症や循環変化の手掛かりとなる。
- エ. 熱感は触覚や必要に応じ測定で評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「一度も健側を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「視診だけで必ず判断する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「強く摩擦してから比較する」に関する内容で、今回の誤判断「視診だけで必ず判断する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「手背などで健側と比較し、左右差をみる」に関する内容で、今回の誤判断「視診だけで必ず判断する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「視診だけで必ず判断する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「視診だけで必ず判断する」は不適切である。理由は、熱感は触覚や必要に応じ測定で評価する。この論点での適切な判断は「手背などで健側と比較し、左右差をみる」である。

JS02-PDF-051

2-2 評価 > 視診触診 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：視診触診・骨折固有所見の安全な扱いを理解する】「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 軋轢音がなくても骨折は存在し得る。
- イ. 二次的な軟部組織・神経血管損傷を起こす危険がある。
- ウ. 安全性を優先する。
- エ. 骨折部を動かして軋轢音を意図的に誘発すると、疼痛や二次損傷を増やす危険がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「音がなければ骨折を完全に否定する」に関する内容で、今回の「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「診断のため何度も強く動かして必ず音を出す」に関する内容で、今回の「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「触診前に固定を外して激しく運動させる」に関する内容で、今回の「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「既に認められた所見として扱い、確認目的に無理に誘発しない」が適切である。根拠は、骨折部を動かして軋轢音を意図的に誘発すると、疼痛や二次損傷を増やす危険がある。

JS02-PDF-052

2-2 評価 > 視診触診 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：視診触診・末梢神経血管評価を行う】実習生が「体温・呼吸数だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 循環と神経機能を複数項目で確認し、左右差や経時変化をみることが重要である。
- イ. 外傷肢の末梢神経血管評価ではない。
- ウ. 末梢神経血管機能の直接評価にはならない。
- エ. 全身状態の指標だが末梢局所評価が不足している。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「皮膚色・毛細血管再充満・脈拍・感覚・運動」に関する内容で、今回の誤判断「体温・呼吸数だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「視力・聴力・嗅覚」に関する内容で、今回の誤判断「体温・呼吸数だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「身長・体重・BMI」に関する内容で、今回の誤判断「体温・呼吸数だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「体温・呼吸数だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「体温・呼吸数だけ」は不適切である。理由は、全身状態の指標だが末梢局所評価が不足している。この論点での適切な判断は「皮膚色・毛細血管再充満・脈拍・感覚・運動」である。

JS02-PDF-053

2-2 評価 > 視診触診 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：視診触診・筋緊張を触診で評価する】「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 触診や運動所見を組み合わせで評価する。

イ. 筋緊張は左右差や動作時変化を比較することで評価しやすい。

ウ. 筋緊張評価とは異なる。

エ. 安全で適切な評価手順ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮膚色だけで筋緊張を決める」に関する内容で、今回の「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨突出部だけを強く叩く」に関する内容で、今回の「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者に説明せず急に最大抵抗を加える」に関する内容で、今回の「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「健側と比較し、安静時や軽い収縮時の硬さ・緊張を確認する」が適切である。根拠は、筋緊張は左右差や動作時変化を比較することで評価しやすい。

JS02-PDF-054

2-2 評価 > 視診触診 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：視診触診・安全な触診順序を理解する】実習生が「説明せず最も痛い部位から強く押す」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 患者の不安と疼痛を軽減し、反応を比較しながら評価できる。

イ. まず観察と基本診察を行う。

ウ. 防御性収縮や疼痛増悪を招き評価を難しくする。

エ. 症状や部位に応じて圧を調整する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「患者に説明し、非疼痛部から患部へ徐々に進める」に関する内容で、今回の誤判断「説明せず最も痛い部位から強く押す」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「視診を行わず直ちに激しい徒手検査を行う」に関する内容で、今回の誤判断「説明せず最も痛い部位から強く押す」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「説明せず最も痛い部位から強く押す」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患者の訴えに関係なく同じ圧で触る」に関する内容で、今回の誤判断「説明せず最も痛い部位から強く押す」の理由ではない。

総合解説：「説明せず最も痛い部位から強く押す」は不適切である。理由は、防御性収縮や疼痛増悪を招き評価を難しくする。この論点での適切な判断は「患者に説明し、非疼痛部から患部へ徐々に進める」である。

JS02-PDF-055

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：徒手検査・自動運動と他動運動の役割を区別する】「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 循環評価には脈拍等を用いる。
- イ. 自動運動は筋力・神経機能・疼痛・関節機能を含む総合的な情報を与える。
- ウ. 自動運動が可能でも骨折を完全には除外できない。
- エ. 自動運動は患者自身が行う運動である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を直接測定できるため」に関する内容で、今回の「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折を必ず除外できるため」に関する内容で、今回の「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「関節を最大限強制できるため」に関する内容で、今回の「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「患者自身の運動能力と疼痛の出方を把握できるため」が適切である。根拠は、自動運動は筋力・神経機能・疼痛・関節機能を含む総合的な情報を与える。

JS02-PDF-056

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：徒手検査・他動運動の意義を理解する】実習生が「患者の最大筋力だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 他動運動では筋収縮の影響を減らし、関節包や靱帯など非収縮性組織の可動性を評価しやすい。
- イ. ROM検査では測定できない。
- ウ. 他動運動は患者が自発的に筋力を発揮する検査ではない。
- エ. 他動運動で骨密度は測定できない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「関節や非収縮性組織の可動性と疼痛の出方」に関する内容で、今回の誤判断「患者の最大筋力だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「血糖値」に関する内容で、今回の誤判断「患者の最大筋力だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「患者の最大筋力だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨密度」に関する内容で、今回の誤判断「患者の最大筋力だけ」の理由ではない。

総合解説：「患者の最大筋力だけ」は不適切である。理由は、他動運動は患者が自発的に筋力を発揮する検査ではない。この論点での適切な判断は「関節や非収縮性組織の可動性と疼痛の出方」である。

JS02-PDF-057

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：徒手検査・抵抗運動検査の目的を理解する】「筋・腱など収縮性組織の機能」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 抵抗を加えた収縮で疼痛や筋力低下を確認し、筋・腱機能の評価に用いる。

イ. 抵抗運動検査では評価できない。

ウ. 血液・骨髓検査が必要である。

エ. 抵抗運動検査の対象ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「筋・腱など収縮性組織の機能」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「関節液の化学成分」に関する内容で、今回の「筋・腱など収縮性組織の機能」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨髓の細胞数」に関する内容で、今回の「筋・腱など収縮性組織の機能」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚の色素量」に関する内容で、今回の「筋・腱など収縮性組織の機能」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「筋・腱など収縮性組織の機能」が適切である。根拠は、抵抗を加えた収縮で疼痛や筋力低下を確認し、筋・腱機能の評価に用いる。

JS02-PDF-058

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：徒手検査・徒手検査の安全性を確保する】実習生が「受傷直後ほど強いストレスを加える」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 個体差を考慮するため健側比較は有用である。

イ. 重篤な損傷を疑う場合は、無理なストレス検査で二次損傷を起こさないよう安全性を優先する。

ウ. 急性期に無理な力を加えると損傷を悪化させ得る。

エ. 疼痛や防御性収縮は安全性・信頼性に影響する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「健側比較は行わない」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後ほど強いストレスを加える」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折や明らかな脱臼など、検査で悪化し得る状態をまず除外・評価する」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後ほど強いストレスを加える」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「受傷直後ほど強いストレスを加える」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患者の疼痛を無視して行う」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後ほど強いストレスを加える」の理由ではない。

総合解説：「受傷直後ほど強いストレスを加える」は不適切である。理由は、急性期に無理な力を加えると損傷を悪化させ得る。この論点での適切な判断は「骨折や明らかな脱臼など、検査で悪化し得る状態をまず除外・評価する」である。

JS02-PDF-059

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：徒手検査・健患比較の意義を理解する】「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 左右差をみることで個人差を考慮し、患側所見の意味を判断しやすくなる。

イ. 健側比較は患側評価を補助するもので代替しない。

ウ. 生理的左右差もある。

エ. 必要な場合には画像診断等が別途必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「患側を診察しなくてよくなる」に関する内容で、今回の「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「すべての左右差が病的と判断できる」に関する内容で、今回の「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像検査が不要になる」に関する内容で、今回の「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「患者固有の可動性や関節弛緩性を基準にできる」が適切である。根拠は、左右差をみることで個人差を考慮し、患側所見の意味を判断しやすくなる。

JS02-PDF-060

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：徒手検査・急性期徒手検査の限界を理解する】実習生が「疼痛の強さは検査結果に影響しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 強い力は二次損傷や疼痛増悪を招く。

イ. 問診・視診・触診等を統合する。

ウ. 疼痛は患者の協力や筋性防御に影響する。

エ. 急性痛や防御性収縮は可動域や不安定性評価に影響し、偽陰性・偽陽性の原因になり得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「強く力を加えれば必ず正確になる」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛の強さは検査結果に影響しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「一回の検査結果だけで必ず確定診断できる」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛の強さは検査結果に影響しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛の強さは検査結果に影響しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「疼痛や筋性防御により検査の信頼性が低下する可能性を考える」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛の強さは検査結果に影響しない」の理由ではない。

総合解説：「疼痛の強さは検査結果に影響しない」は不適切である。理由は、疼痛は患者の協力や筋性防御に影響する。この論点での適切な判断は「疼痛や筋性防御により検査の信頼性が低下する可能性を考える」である。

JS02-PDF-061

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：徒手検査・筋力評価で代償運動を識別する】「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 運動方向により主働筋は異なる。
- イ. 肢位や固定は筋力発揮と代償動作に影響する。
- ウ. 疼痛や損傷状態に配慮する。
- エ. 代償動作が混入すると対象筋の筋力を正確に評価しにくい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「患者がどの方向に動かしても同じ筋を評価できる」に関する内容で、今回の「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「姿勢は結果に影響しない」に関する内容で、今回の「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が強くても最大抵抗を必ず加える」に関する内容で、今回の「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「検査する運動方向と主働筋を意識し、必要に応じて代償運動を抑える」が適切である。根拠は、代償動作が混入すると対象筋の筋力を正確に評価しにくい。

JS02-PDF-062

2-2 評価 > 徒手検査 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：徒手検査・徒手検査の中止基準を理解する】実習生が「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 検査操作が神経を刺激することもある。
- イ. 症状を悪化させる危険がある。
- ウ. 新規神経症状や著明な疼痛増悪は二次損傷の可能性があるため、無理に検査を継続しない。
- エ. 重要な変化は記録し再評価する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「結果を得るまで同じ操作を繰り返す」に関する内容で、今回の誤判断「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「検査を中止し、神経・血管状態を含めて再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「症状を記録せず検査を続ける」に関する内容で、今回の誤判断「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」の理由ではない。

総合解説：「神経症状は徒手検査と無関係とみなす」は不適切である。理由は、検査操作が神経を刺激することもある。この論点での適切な判断は「検査を中止し、神経・血管状態を含めて再評価する」である。

JS02-PDF-063

2-3 整復 > 整復原則 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・整復の目的を理解する】「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 整復は形態・機能回復を目指し、損傷部の位置関係を改善することが基本目的である。

イ. 整復前後の神経血管評価は重要である。

ウ. 整復後も固定や後療法が必要なことが多い。

エ. 整復の目的と逆である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「神経・血管評価を省略する」に関する内容で、今回の「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「すべての外傷で固定を不要にする」に関する内容で、今回の「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「損傷部を意図的にさらに転位させる」に関する内容で、今回の「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「転位した骨片や関節面を可能な範囲で正常に近い位置関係へ戻す」が適切である。根拠は、整復は形態・機能回復を目指し、損傷部の位置関係を改善することが基本目的である。

JS02-PDF-064

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・整復前の説明と同意を理解する】実習生が「何も説明せず直ちに強い操作を行う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 説明と同意、安全なコミュニケーションが必要である。

イ. 必要なリスク説明を行うべきである。

ウ. 患者が理解し同意できるよう、目的・方法・リスクや今後の流れを説明する。

エ. 整復結果や予後には不確実性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「何も説明せず直ちに強い操作を行う」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「神経血管障害の可能性は一切説明しない」に関する内容で、今回の誤判断「何も説明せず直ちに強い操作を行う」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「整復の目的、方法の概要、予想される疼痛や注意点」に関する内容で、今回の誤判断「何も説明せず直ちに強い操作を行う」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「結果が必ず完全になると断定する」に関する内容で、今回の誤判断「何も説明せず直ちに強い操作を行う」の理由ではない。

総合解説：「何も説明せず直ちに強い操作を行う」は不適切である。理由は、説明と同意、安全なコミュニケーションが必要である。この論点での適切な判断は「整復の目的、方法の概要、予想される疼痛や注意点」である。

JS02-PDF-065

2-3 整復 > 整復原則 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・整復前後の神経血管評価の意義を理解する】「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 整復後も再評価が必要である。
- イ. 神経血管評価だけで骨折線は決まらない。
- ウ. 目的とは無関係である。
- エ. 整復前の基準所見があることで、整復後の変化を比較評価できる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「整復後の評価が不要になるため」に関する内容で、今回の「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折線の方法を必ず確定できるため」に関する内容で、今回の「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者の年齢を推定するため」に関する内容で、今回の「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「受傷時からの障害と整復操作後に生じた変化を区別するため」が適切である。根拠は、整復前の基準所見があることで、整復後の変化を比較評価できる。

JS02-PDF-066

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・牽引の意味を理解する】実習生が「骨折部をさらに短縮させる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 牽引の主目的ではない。
- イ. 牽引は重なりや短縮の改善に用いられる。
- ウ. 適切な牽引は筋緊張や短縮を軽減し、骨片・関節面の位置関係を戻す助けとなる。
- エ. 神経障害を起こさないよう注意する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「患部の腫脹を必ず完全に消失させる」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部をさらに短縮させる」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折部をさらに短縮させる」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「筋緊張や骨片の重なりを軽減し、整復操作を行いやすくする」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部をさらに短縮させる」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「神経機能を意図的に遮断する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折部をさらに短縮させる」の理由ではない。

総合解説：「骨折部をさらに短縮させる」は不適切である。理由は、牽引は重なりや短縮の改善に用いられる。この論点での適切な判断は「筋緊張や骨片の重なりを軽減し、整復操作を行いやすくする」である。

JS02-PDF-067

2-3 整復 > 整復原則 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・対抗牽引の力学的役割を理解する】「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。
ア. 循環障害は避けるべきである。
イ. 対抗牽引は体幹・近位部を安定させ、牽引の力を損傷部へ適切に伝える助けになる。
ウ. 対抗牽引は整復操作の一部である。
エ. 過度の回旋は二次損傷を起こし得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を意図的に遮断する」に関する内容で、今回の「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「整復後の固定を不要にする」に関する内容で、今回の「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患部を無制限に回旋させる」に関する内容で、今回の「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「牽引力に対する安定した反対方向の力を作る」が適切である。根拠は、対抗牽引は体幹・近位部を安定させ、牽引の力を損傷部へ適切に伝える助けになる。

JS02-PDF-068

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・過大な整復操作の危険性を理解する】実習生が「整復後に固定を検討する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。
ア. 無理な反復操作は骨・軟部組織・神経血管の二次損傷を招く危険がある。
イ. 安全な整復には継続的な患者観察が必要である。
ウ. これは重要な安全確認である。
エ. 整復位維持のため固定が必要になることが多い。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「抵抗が強いのに過大な力で反復して操作する」に関する内容で、今回の誤判断「整復後に固定を検討する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患者の状態を観察しながら操作する」に関する内容で、今回の誤判断「整復後に固定を検討する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「整復前後で神経血管所見を比較する」に関する内容で、今回の誤判断「整復後に固定を検討する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「整復後に固定を検討する」が不適切である理由に直接対応する。総合解説：「整復後に固定を検討する」は不適切である。理由は、整復位維持のため固定が必要になることが多い。この論点での適切な判断は「抵抗が強いのに過大な力で反復して操作する」である。

JS02-PDF-069

2-3 整復 > 整復原則 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・整復中の神経症状に対応する】「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 圧迫を増やすと神経血管障害を悪化させる可能性がある。
- イ. 新規のしびれは神経・血管への影響を示す可能性があり、直ちに安全確認が必要である。
- ウ. 二次損傷を悪化させる危険がある。
- エ. 重要な警告症状である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定をさらに強く締めてから評価する」に関する内容で、今回の「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「整復が成功するまで操作を続ける」に関する内容で、今回の「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「しびれは無視してよい」に関する内容で、今回の「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「操作を中止し、神経・血管状態を再評価する」が適切である。根拠は、新規のしびれは神経・血管への影響を示す可能性があり、直ちに安全確認が必要である。

JS02-PDF-070

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・整復後確認の要点を理解する】実習生が「施術者の疲労度だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 臨床安全性の確認事項ではない。
- イ. 整復直後は患者の状態確認が優先される。
- ウ. 整復直後の安全確認より優先されない。
- エ. 整復効果だけでなく、二次的神経血管障害や全身状態変化を確認する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定材料の価格だけ」に関する内容で、今回の誤判断「施術者の疲労度だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「施術者の疲労度だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「患者の職業だけ」に関する内容で、今回の誤判断「施術者の疲労度だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「全身状態、整復状態、末梢神経・血管機能」に関する内容で、今回の誤判断「施術者の疲労度だけ」の理由ではない。

総合解説：「施術者の疲労度だけ」は不適切である。理由は、整復直後は患者の状態確認が優先される。この論点での適切な判断は「全身状態、整復状態、末梢神経・血管機能」である。

JS02-PDF-071

2-3 整復 > 整復原則 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・整復状態を多面的に評価する】「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 整復後は形態と安定性を確認し、必要に応じて画像評価や医療連携を行う。

イ. 疼痛軽減だけでは整復状態を確定できない。

ウ. 腫脹だけでは整復位は評価できない。

エ. 神経血管評価も重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「疼痛が減れば必ず完全整復と判断する」に関する内容で、今回の「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「腫脹だけで整復の良否を決める」に関する内容で、今回の「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「末梢感覚は確認しない」に関する内容で、今回の「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「軸、長さ、回旋、安定性など整復状態を確認する」が適切である。根拠は、整復後は形態と安定性を確認し、必要に応じて画像評価や医療連携を行う。

JS02-PDF-072

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・脱臼整復後の確認事項を理解する】実習生が「感覚障害があっても経過観察だけにする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷組織の保護や安定性確保が必要なことがある。

イ. 整復直後の過度な運動は再損傷の危険がある。

ウ. 整復後は再脱臼や合併損傷、神経血管障害がないかを評価する。

エ. 神経障害の可能性がある適切な評価・連携が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「整復できれば固定や安静は一切不要とする」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても経過観察だけにする」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「可動域を無制限に最大まで強制する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても経過観察だけにする」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節の位置関係と安定性、神経・血管機能を再確認する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害があっても経過観察だけにする」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「感覚障害があっても経過観察だけにする」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「感覚障害があっても経過観察だけにする」は不適切である。理由は、神経障害の可能性がある適切な評価・連携が必要である。この論点での適切な判断は「関節の位置関係と安定性、神経・血管機能を再確認する」である。

JS02-PDF-073

2-3 整復 > 整復原則 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：整復原則・整復適応と医療連携を判断する】「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染や組織損傷を悪化させる危険がある。
- イ. 神経血管評価は重要である。
- ウ. 開放創を伴う骨折では緊急性を考慮する。
- エ. 開放骨折は感染や重篤な軟部組織損傷の危険があり、無理な徒手操作を避けて速やかな医療対応につなげる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「創内へ骨片を押し戻すため強く操作する」に関する内容で、今回の「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「末梢循環を確認しない」に関する内容で、今回の「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「創を放置して長時間の運動療法を行う」に関する内容で、今回の「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「創を保護し、必要な応急固定を行い、速やかな医療連携を優先する」が適切である。根拠は、開放骨折は感染や重篤な軟部組織損傷の危険があり、無理な徒手操作を避けて速やかな医療対応につなげる。

JS02-PDF-074

2-3 整復 > 整復原則 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：整復原則・整復と固定の関係を理解する】実習生が「整復位を崩しやすくするため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 整復しても不安定であれば再転位し得るため、治癒に必要な安定性を固定で確保する。
- イ. 固定後も神経血管状態を確認する。
- ウ. 固定は整復位を維持するために行う。
- エ. 拘縮は固定の目的ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「得られた整復位を保持し、損傷組織を保護するため」に関する内容で、今回の誤判断「整復位を崩しやすくするため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「固定中の神経血管評価を不要にするため」に関する内容で、今回の誤判断「整復位を崩しやすくするため」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「整復位を崩しやすくするため」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「関節拘縮を必ず起こすため」に関する内容で、今回の誤判断「整復位を崩しやすくするため」の理由ではない。

総合解説：「整復位を崩しやすくするため」は不適切である。理由は、固定は整復位を維持するために行う。この論点での適切な判断は「得られた整復位を保持し、損傷組織を保護するため」である。

JS02-PDF-075

2-3 整復 > 固定 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定・整復後固定の目的を理解する】「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 循環障害は固定の重大な合併問題である。

イ. 治癒初期には必要な安定性を確保する。

ウ. 固定の目的と逆である。

エ. 整復後固定は再転位防止と治癒環境の確保に重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「末梢循環を遮断する」に関する内容で、今回の「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「患部を常に最大可動域で動かす」に関する内容で、今回の「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「整復位を不安定にする」に関する内容で、今回の「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「整復位を保ち、損傷組織を安静・保護する」が適切である。根拠は、整復後固定は再転位防止と治癒環境の確保に重要である。

JS02-PDF-076

2-3 整復 > 固定 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定・固定の圧迫と安定性を両立する】実習生が「腫脹の変化を考慮しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 固定は十分な支持性と神経血管安全性の両立が必要である。

イ. 循環障害を起こす危険がある。

ウ. 固定効果が低下し再転位や擦れの原因になる。

エ. 急性期は腫脹が変化するため再評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「安定性を確保しつつ、末梢循環を妨げない程度にする」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹の変化を考慮しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「脈拍が触れなくなるまで強く締める」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹の変化を考慮しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「固定がずれても緩いまま放置する」に関する内容で、今回の誤判断「腫脹の変化を考慮しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「腫脹の変化を考慮しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「腫脹の変化を考慮しない」は不適切である。理由は、急性期は腫脹が変化するため再評価が必要である。この論点での適切な判断は「安定性を確保しつつ、末梢循環を妨げない程度にする」である。

JS02-PDF-077

2-3 整復 > 固定 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定・整復後の固定範囲を判断する】「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷型により隣接関節を含めることがある。
- イ. 損傷部位により必要範囲は異なる。
- ウ. 損傷部の保護ができない。
- エ. 損傷部の安定性確保に必要な範囲を固定するが、不要な固定拡大は避ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「常に一つの関節だけを固定する」に関する内容で、今回の「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「常に肩から指先まで固定する」に関する内容で、今回の「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「患部を固定範囲から外す」に関する内容で、今回の「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「損傷部を十分に支持し、必要に応じて隣接関節を含める」が適切である。根拠は、損傷部の安定性確保に必要な範囲を固定するが、不要な固定拡大は避ける。

JS02-PDF-078

2-3 整復 > 固定 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定・固定肢位の臨床判断を行う】実習生が「見た目だけの左右対称」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 部位や損傷型により適切な肢位は異なる。
- イ. 固定肢位は整復位を保持しながら、神経血管障害や過度な組織緊張を避ける必要がある。
- ウ. 過度な伸張は損傷を悪化させ得る。
- エ. 損傷型や整復位に応じた機能的・安全な肢位が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「すべての関節を同じ角度にする」に関する内容で、今回の誤判断「見た目だけの左右対称」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「整復位の保持、神経血管安全性、組織保護」に関する内容で、今回の誤判断「見た目だけの左右対称」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「患者の疼痛を無視した最大伸張位」に関する内容で、今回の誤判断「見た目だけの左右対称」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「見た目だけの左右対称」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「見た目だけの左右対称」は不適切である。理由は、損傷型や整復位に応じた機能的・安全な肢位が重要である。この論点での適切な判断は「整復位の保持、神経血管安全性、組織保護」である。

JS02-PDF-079

2-3 整復 > 固定 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定・固定による局所圧迫障害を予防する】「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所圧迫を減らしつつ支持性を保つ。
- イ. 圧迫障害の危険が高まる。
- ウ. 骨突出部では圧が集中しやすく、パッドで圧を分散する。
- エ. 循環障害は避けるべきである。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「固定を必ず緩くするため」に関する内容で、今回の「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「突出部への圧迫を増すため」に関する内容で、今回の「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「末梢脈拍を消失させるため」に関する内容で、今回の「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「局所圧迫を分散し皮膚・神経障害を予防する」が適切である。根拠は、骨突出部では圧が集中しやすく、パッドで圧を分散する。

JS02-PDF-080

2-3 整復 > 固定 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定・固定後の末梢循環を評価する】実習生が「食欲だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 末梢循環を複数項目で確認し、固定による血流障害がないか評価する。
- イ. 循環状態を直接示す局所所見ではない。
- ウ. 末梢循環の直接評価ではない。
- エ. 外傷肢の末梢循環評価ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮膚色、温度、毛細血管再充満、脈拍」に関する内容で、今回の誤判断「食欲だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「食欲だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「身長、体重、腹囲」に関する内容で、今回の誤判断「食欲だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「瞳孔反射だけ」に関する内容で、今回の誤判断「食欲だけ」の理由ではない。

総合解説：「食欲だけ」は不適切である。理由は、循環状態を直接示す局所所見ではない。この論点での適切な判断は「皮膚色、温度、毛細血管再充満、脈拍」である。

JS02-PDF-081

2-3 整復 > 固定 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定・固定後の警告症状を判断する】「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 圧迫を悪化させる危険がある。

イ. しびれと蒼白は神経血管障害を示す可能性があり、緊急に固定状態と末梢循環を確認する。

ウ. 重大な循環障害の可能性はある。

エ. 神経血管障害は速やかな対応が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「さらに強く締める」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「正常な反応として必ず放置する」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「翌週まで評価しない」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「固定による神経・血管圧迫を疑い、直ちに再評価する」が適切である。根拠は、しびれと蒼白は神経血管障害を示す可能性があり、緊急に固定状態と末梢循環を確認する。

JS02-PDF-082

2-3 整復 > 固定 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定・腫脹変化に応じて固定を再評価する】実習生が「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 固定調整時も神経血管状態を確認する。

イ. 治癒段階を無視した操作は再損傷の危険がある。

ウ. 支持性低下や擦れの原因になることがある。

エ. 腫脹が減ると固定が緩み、整復位保持や支持性が低下することがある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末梢神経・血管評価は不要とする」に関する内容で、今回の誤判断「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「緩いほど安全なので必ずそのままにする」に関する内容で、今回の誤判断「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「固定効果が保っているか再評価し、必要に応じて調整する」に関する内容で、今回の誤判断「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」の理由ではない。

総合解説：「患部を強く動かして固定の必要性を確認する」は不適切である。理由は、治癒段階を無視した操作は再損傷の危険がある。この論点での適切な判断は「固定効果が保っているか再評価し、必要に応じて調整する」である。

JS02-PDF-083

2-3 整復 > 固定 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：固定・固定による皮膚障害を早期に認識する】「局所圧迫による皮膚障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 限局した灼熱感や痛みは固定内の局所圧迫や皮膚損傷の警告所見となる。

イ. 局所灼熱感や痛みは骨癒合完成を示す所見ではない。

ウ. 圧迫障害の可能性があり再評価が必要である。

エ. 筋力増加を示さない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「局所圧迫による皮膚障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず骨癒合が完成した徴候」に関する内容で、今回の「局所圧迫による皮膚障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「固定が理想的な証拠」に関する内容で、今回の「局所圧迫による皮膚障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「筋力が増加した徴候」に関する内容で、今回の「局所圧迫による皮膚障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「局所圧迫による皮膚障害」が適切である。根拠は、限局した灼熱感や痛みは固定内の局所圧迫や皮膚損傷の警告所見となる。

JS02-PDF-084

2-3 整復 > 固定 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：固定・固定後の患者教育を行う】実習生が「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 警告症状があれば速やかな評価が必要である。

イ. 固定後は神経血管障害や皮膚障害、固定不良の警告症状を患者にも理解してもらうことが重要である。

ウ. 材料によっては固定強度や皮膚状態に影響する。

エ. 損傷に影響しない範囲の非固定部位運動が推奨される場合がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「症状が悪化しても一切相談しない」に関する内容で、今回の誤判断「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「しびれ・冷感・色調変化・疼痛増悪・固定の破損や緩みがあれば早めに相談する」に関する内容で、今回の誤判断「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「固定が濡れても必ず問題ない」に関する内容で、今回の誤判断「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「指趾は全く動かしてはいけないと一律に指示する」は不適切である。理由は、損傷に影響しない範囲の非固定部位運動が推奨される場合がある。この論点での適切な判断は「しびれ・冷感・色調変化・疼痛増悪・固定の破損や緩みがあれば早めに相談する」である。

JS02-PDF-085

2-3 整復 > 後療法 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：後療法・固定継続と治癒段階の関係を理解する】「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定状態や治癒経過の再評価が必要である。
- イ. 固定は治癒に必要な安定性を保ちながら、不必要な長期固定を避けるよう調整する。
- ウ. 長期固定には拘縮や筋萎縮などの弊害がある。
- エ. 損傷型や安定性により必要期間は異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「固定中は再評価を行わない」に関する内容で、今回の「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛の有無に関係なく永久に継続する」に関する内容で、今回の「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「受傷翌日に必ず全例で解除する」に関する内容で、今回の「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「治癒段階と安定性を評価し、必要な期間だけ継続する」が適切である。根拠は、固定は治癒に必要な安定性を保ちながら、不必要な長期固定を避けるよう調整する。

JS02-PDF-086

2-3 整復 > 後療法 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：後療法・包帯交換時の安全確認を理解する】実習生が「患者の身長だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 包帯交換は固定の再調整だけでなく、皮膚と神経血管障害の確認機会でもある。
- イ. 局所状態の確認に代わらない。
- ウ. 包帯交換時の局所評価として不十分である。
- エ. 臨床評価の中心ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「皮膚状態、腫脹、圧迫痕、末梢神経・血管状態」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「施術室の照明だけ」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「患者の身長だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「固定材料の色だけ」に関する内容で、今回の誤判断「患者の身長だけ」の理由ではない。

総合解説：「患者の身長だけ」は不適切である。理由は、包帯交換時の局所評価として不十分である。この論点での適切な判断は「皮膚状態、腫脹、圧迫痕、末梢神経・血管状態」である。

JS02-PDF-087

2-3 整復 > 後療法 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：後療法・固定中の廃用予防を理解する】「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 不必要な不動は拘縮や筋力低下を招き得る。
- イ. 症状と治癒段階に応じて調整する。
- ウ. 不要な廃用を防ぎつつ、損傷部には必要な安定性を保つことが重要である。
- エ. 治癒組織を再損傷する可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「非固定部位もすべて完全不動にする」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛や治癒段階を一切考慮しない」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「固定部を毎日最大可動域まで強制する」に関する内容で、今回の「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷部の安定性を損なわない範囲で、非固定関節や許可された運動を行う」が適切である。根拠は、不要な廃用を防ぎつつ、損傷部には必要な安定性を保つことが重要である。

JS02-PDF-088

2-3 整復 > 後療法 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：後療法・手技療法の適応・禁忌を判断する】実習生が「すべての急性外傷に同じ強さで行う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷部位や治癒段階に応じた判断が必要である。
- イ. 安定性確保が優先される場合がある。
- ウ. 症状悪化時は再評価すべきである。
- エ. 急性炎症が強い時期や不安定な損傷では強い手技が不適切な場合がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「すべての急性外傷に同じ強さで行う」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「整復や固定の必要性を無視して手技だけ行う」に関する内容で、今回の誤判断「すべての急性外傷に同じ強さで行う」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が増悪しても続ける」に関する内容で、今回の誤判断「すべての急性外傷に同じ強さで行う」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「損傷組織の治癒段階と適応・禁忌を確認して行う」に関する内容で、今回の誤判断「すべての急性外傷に同じ強さで行う」の理由ではない。

総合解説：「すべての急性外傷に同じ強さで行う」は不適切である。理由は、損傷部位や治癒段階に応じた判断が必要である。この論点での適切な判断は「損傷組織の治癒段階と適応・禁忌を確認して行う」である。

JS02-PDF-089

2-3 整復 > 後療法 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：後療法・段階的な運動療法を理解する】「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 機能回復には筋力や動作も評価する。
- イ. 疼痛・腫脹増悪は負荷調整の必要性を示す。
- ウ. 治癒初期には過負荷となり得る。
- エ. 組織の回復と症状に合わせた段階的負荷が再損傷予防と機能回復に重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「可動域が回復しても筋力は評価しない」に関する内容で、今回の「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が増えても負荷を増やす」に関する内容で、今回の「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「受傷直後から全例で最大負荷にする」に関する内容で、今回の「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「治癒段階、疼痛、腫脹、安定性をみながら段階的に負荷を上げる」が適切である。根拠は、組織の回復と症状に合わせた段階的負荷が再損傷予防と機能回復に重要である。

JS02-PDF-090

2-3 整復 > 後療法 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：後療法・物理療法の適切な位置付けを理解する】実習生が「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 安全上の注意が必要である。
- イ. 必要な整復・固定を置き換えることはできない。
- ウ. 物理療法は疼痛や腫脹、機能改善を支援する一手段であり、病態評価と組み合わせる。
- エ. 症状や機能の変化を評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「禁忌を考えず全例に同じ方法を用いる」に関する内容で、今回の誤判断「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「症状と治癒段階に応じて補助的に用い、適応を随時評価する」に関する内容で、今回の誤判断「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「効果判定を一切行わない」に関する内容で、今回の誤判断「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」の理由ではない。

総合解説：「整復や固定が必要な損傷でも物理療法だけで代替する」は不適切である。理由は、必要な整復・固定を置き換えることはできない。この論点での適切な判断は「症状と治癒段階に応じて補助的に用い、適応を随時評価する」である。

JS02-PDF-091

2-3 整復 > 後療法 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：後療法・後療法を経時評価で調整する】「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 後療法は症状と機能の変化を追い、負荷量や内容を調整する。

イ. 治癒に伴い状態は変化するため中間評価が必要である。

ウ. 可動域、筋力、安定性、動作などもみる。

エ. 復帰目標は後療法計画に重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「初回評価だけで最後まで内容を変更しない」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛だけを唯一の指標とする」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「患者の活動目標を考慮しない」に関する内容で、今回の「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛、腫脹、可動域、筋力、日常動作などの経時的評価」が適切である。根拠は、後療法は症状と機能の変化を追い、負荷量や内容を調整する。

JS02-PDF-092

2-3 整復 > 後療法 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：後療法・後療法終了と復帰判断を理解する】実習生が「固定除去日だけで復帰可否を決める」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 機能が不十分なら再損傷リスクがある。

イ. 機能差や代償動作の残存は再損傷につながり得る。

ウ. 固定除去と競技・仕事復帰の準備は同義ではない。

エ. 単一指標ではなく、再損傷リスクを考えながら機能を総合評価して復帰を進める。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「痛みが少し減れば直ちに最大負荷へ戻す」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去日だけで復帰可否を決める」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「健患差や動作の質を評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去日だけで復帰可否を決める」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「固定除去日だけで復帰可否を決める」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「組織の治癒、疼痛、可動域、筋力、動作能力を総合して段階的に復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去日だけで復帰可否を決める」の理由ではない。

総合解説：「固定除去日だけで復帰可否を決める」は不適切である。理由は、固定除去と競技・仕事復帰の準備は同義ではない。この論点での適切な判断は「組織の治癒、疼痛、可動域、筋力、動作能力を総合して段階的に復帰する」である。

JS02-PDF-093

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：神経損傷・骨折部位と損傷しやすい末梢神経を関連付ける】「橈骨神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 橈骨神経は上腕骨骨幹部、とくに橈骨神経溝付近を走行するため、上腕骨骨幹部骨折で障害され得る。

イ. 尺骨神経は肘内側や上腕骨内側上顆周辺で問題となりやすい。

ウ. 正中神経も上肢外傷で損傷し得るが、上腕骨骨幹部骨折との代表的な関連は橈骨神経である。

エ. 腓骨神経は下肢、とくに腓骨頭周囲で障害されやすい。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「橈骨神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「尺骨神経障害」に関する内容で、今回の「橈骨神経障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正中神経障害」に関する内容で、今回の「橈骨神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腓骨神経障害」に関する内容で、今回の「橈骨神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨神経障害」が適切である。根拠は、橈骨神経は上腕骨骨幹部、とくに橈骨神経溝付近を走行するため、上腕骨骨幹部骨折で障害され得る。

JS02-PDF-094

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：神経損傷・橈骨神経障害の運動所見を理解する】実習生が「母指対立だけが選択的に障害される」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 上腕部の橈骨神経障害では手関節・手指伸展筋群が障害され、下垂手を呈し得る。

イ. 小指球筋は主に尺骨神経支配である。

ウ. 母指対立は主に正中神経支配であり、橈骨神経障害の典型ではない。

エ. 足関節背屈低下は腓骨神経障害など下肢神経障害でみられる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「手関節背屈の低下による下垂手」に関する内容で、今回の誤判断「母指対立だけが選択的に障害される」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「小指球筋だけの麻痺」に関する内容で、今回の誤判断「母指対立だけが選択的に障害される」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「母指対立だけが選択的に障害される」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「足関節背屈が障害される」に関する内容で、今回の誤判断「母指対立だけが選択的に障害される」の理由ではない。

総合解説：「母指対立だけが選択的に障害される」は不適切である。理由は、母指対立は主に正中神経支配であり、橈骨神経障害の典型ではない。この論点での適切な判断は「手関節背屈の低下による下垂手」である。

JS02-PDF-095

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：神経損傷・感覚障害領域から障害神経を推定する】「正中神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 尺骨神経障害では小指と環指尺側の感覚障害が中心となる。

イ. 正中神経の感覚支配領域と一致し、橈骨遠位端骨折や腫脹に伴う圧迫で障害され得る。

ウ. 腋窩神経障害では主に三角筋機能と上腕外側の感覚が問題となる。

エ. 橈骨神経の感覚障害は主に手背橈側に現れる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「尺骨神経障害」に関する内容で、今回の「正中神経障害」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「正中神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「腋窩神経障害」に関する内容で、今回の「正中神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「橈骨神経障害」に関する内容で、今回の「正中神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「正中神経障害」が適切である。根拠は、正中神経の感覚支配領域と一致し、橈骨遠位端骨折や腫脹に伴う圧迫で障害され得る。

JS02-PDF-096

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：神経損傷・尺骨神経の感覚・運動支配を理解する】実習生が「正中神経」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 尺骨神経障害では小指・環指尺側の感覚障害と手内筋麻痺による巧緻運動障害がみられやすい。

イ. 下肢の神経であり、足背感覚や足関節背屈に関与する。

ウ. 橈骨神経障害では手関節・手指伸展障害が典型である。

エ. 正中神経では母指～環指橈側の感覚や母指対立などが問題となる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「尺骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腓骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「橈骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「正中神経」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「正中神経」は不適切である。理由は、正中神経では母指～環指橈側の感覚や母指対立などが問題となる。この論点での適切な判断は「尺骨神経」である。

JS02-PDF-097

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：神経損傷・固定による腓骨神経圧迫を認識する】「腓骨神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 腓骨神経は腓骨頭周囲で表在性に走行し、外部圧迫で障害されると下垂足と足背の感覚障害を来し得る。

イ. 大腿神経は膝伸展や大腿前面・下腿内側の感覚に関係する。

ウ. 脛骨神経障害では足底感覚や足関節底屈などが問題となる。

エ. 閉鎖神経は股関節内転筋群などに関与し、下垂足の典型原因ではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「腓骨神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「大腿神経障害」に関する内容で、今回の「腓骨神経障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脛骨神経障害」に関する内容で、今回の「腓骨神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「閉鎖神経障害」に関する内容で、今回の「腓骨神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腓骨神経障害」が適切である。根拠は、腓骨神経は腓骨頭周囲で表在性に走行し、外部圧迫で障害されると下垂足と足背の感覚障害を来し得る。

JS02-PDF-098

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：神経損傷・肩関節脱臼に伴う代表的神経障害を理解する】実習生が「尺骨神経障害」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 下腿後面から足底に関係する神経である。

イ. 尺骨神経では小指・環指尺側の感覚や手内筋機能が問題となる。

ウ. 腋窩神経は肩関節周囲を走行し、肩関節脱臼で障害されると三角筋機能低下と上腕外側の感覚障害を来し得る。

エ. 下肢の神経であり肩関節脱臼との関連はない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「脛骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「尺骨神経障害」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「腋窩神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「腓骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

総合解説：「尺骨神経障害」は不適切である。理由は、尺骨神経では小指・環指尺側の感覚や手内筋機能が問題となる。この論点での適切な判断は「腋窩神経障害」である。

JS02-PDF-099

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：神経損傷・外傷時の神経評価手順を理解する】「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腫脹の有無だけでは末梢神経機能を判断できない。
- イ. 臨床的な感覚・運動評価は画像検査だけでは代替できない。
- ウ. 疼痛があっても安全な範囲で感覚・運動所見を確認する意義がある。
- エ. 末梢神経損傷では感覚と運動を系統的に評価し、健側比較と経時変化をみる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「腫脹だけを確認し神経評価は省略する」に関する内容で、今回の「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「画像所見があれば臨床神経評価は不要とする」に関する内容で、今回の「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛があれば感覚検査は不要とする」に関する内容で、今回の「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「感覚領域と支配筋の運動機能を左右で比較する」が適切である。根拠は、末梢神経損傷では感覚と運動を系統的に評価し、健側比較と経時変化をみる。

JS02-PDF-100

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：神経損傷・整復前後の神経所見の変化を判断する】実習生が「感覚障害は数週間評価しなくてよい」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 早期の確認と適切な医療連携が必要である。
- イ. 神経障害を悪化させる可能性がある。
- ウ. 整復前後の比較で新規神経症状を認めた場合は、操作や固定の影響を疑い速やかに再評価する。
- エ. 新規神経症状は二次損傷の可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「感覚障害は数週間評価しなくてよい」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「さらに強い整復操作を繰り返す」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害は数週間評価しなくてよい」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「整復操作や固定による神経障害を疑い、直ちに再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害は数週間評価しなくてよい」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「正常な治癒反応として放置する」に関する内容で、今回の誤判断「感覚障害は数週間評価しなくてよい」の理由ではない。

総合解説：「感覚障害は数週間評価しなくてよい」は不適切である。理由は、早期の確認と適切な医療連携が必要である。この論点での適切な判断は「整復操作や固定による神経障害を疑い、直ちに再評価する」である。

JS02-PDF-101

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：神経損傷・神経損傷程度と回復の多様性を理解する】「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷程度や部位などで回復は大きく異なる。

イ. 末梢神経障害は外力の種類・強さ・持続時間で障害程度が異なり、回復経過も一様ではない。

ウ. 神経の構成線維によって運動・感覚いずれも障害され得る。

エ. 回復や悪化を把握するため反復評価が重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「すべて同じ期間で完全回復する」に関する内容で、今回の「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「運動障害だけが生じ感覚障害は生じない」に関する内容で、今回の「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「神経障害では経時的評価は不要である」に関する内容で、今回の「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「損傷程度により一過性の伝導障害から軸索損傷まで幅がある」が適切である。根拠は、末梢神経障害は外力の種類・強さ・持続時間で障害程度が異なり、回復経過も一様ではない。

JS02-PDF-102

2-4 合併症 > 神経損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：神経損傷・感覚障害を伴わない運動神経障害を理解する】実習生が「骨折が必ず存在する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 感覚障害がなくても運動枝の神経障害はあり得る。

イ. 運動機能評価がむしろ重要である。

ウ. 神経障害の原因は骨折以外にも圧迫、牽引、炎症などがある。

エ. 前骨間神経や後骨間神経のように運動枝の障害では皮膚感覚障害を伴わないことがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「末梢神経障害は完全に否定できる」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ず存在する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「感覚障害がなければ筋力評価は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ず存在する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「骨折が必ず存在する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「運動枝が選択的に障害される病態もあり得る」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ず存在する」の理由ではない。

総合解説：「骨折が必ず存在する」は不適切である。理由は、神経障害の原因は骨折以外にも圧迫、牽引、炎症などがある。この論点での適切な判断は「運動枝が選択的に障害される病態もあり得る」である。

JS02-PDF-103

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：血管損傷・血流障害の警告所見を理解する】「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 急性血管損傷の評価にはならない。

イ. 末梢血流低下を示す所見であり、血管損傷や圧迫を疑って緊急に評価する。

ウ. 機能評価には関係するが血流障害の直接所見ではない。

エ. 単独では動脈血流障害を示す特異的所見ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「患肢の毛髪長さ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「利き手かどうか」に関する内容で、今回の「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「局所の発汗だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末梢脈拍の減弱・消失と皮膚の蒼白・冷感」が適切である。根拠は、末梢血流低下を示す所見であり、血管損傷や圧迫を疑って緊急に評価する。

JS02-PDF-104

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：血管損傷・毛細血管再充満の意味を理解する】実習生が「骨折線の方角を確定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 毛細血管再充満では骨折線は評価できない。

イ. 爪床などを圧迫後に色が戻る様子を見ることで末梢灌流の手掛かりを得る。

ウ. 筋力評価には別の徒手検査を用いる。

エ. 神経伝導速度検査とは異なる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨折線の方角を確定する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「末梢灌流の状態を評価する補助とする」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線の方角を確定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「筋力を数値化する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線の方角を確定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「神経伝導速度を測定する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折線の方角を確定する」の理由ではない。

総合解説：「骨折線の方角を確定する」は不適切である。理由は、毛細血管再充満では骨折線は評価できない。この論点での適切な判断は「末梢灌流の状態を評価する補助とする」である。

JS02-PDF-105

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：血管損傷・整復前後の血管評価の意義を理解する】「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 疼痛には多様な原因がある。
- イ. 脈拍だけで骨癒合期間は決まらない。
- ウ. 整復前の基準所見を記録することで、整復後に血行が改善・悪化したか評価できる。
- エ. むしろ整復後の再評価が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「疼痛の原因を必ず一つに確定できるため」に関する内容で、今回の「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨癒合期間を正確に決められるため」に関する内容で、今回の「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「整復後は血管評価が不要になるため」に関する内容で、今回の「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「受傷時からの血流障害と整復操作後の変化を区別するため」が適切である。根拠は、整復前の基準所見を記録することで、整復後に血行が改善・悪化したか評価できる。

JS02-PDF-106

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：血管損傷・固定後の循環障害を早期に認識する】実習生が「翌週まで観察しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血の警告所見である。
- イ. 急性血流障害では時間経過により組織障害が進む可能性がある。
- ウ. 固定の圧迫で血流が低下している可能性があり、速やかな対応が必要である。
- エ. 循環障害を悪化させる危険がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「正常な固定反応なので放置する」に関する内容で、今回の誤判断「翌週まで観察しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「翌週まで観察しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「固定による血流障害を疑い、直ちに固定状態と末梢循環を再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「翌週まで観察しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「固定をさらに締め付ける」に関する内容で、今回の誤判断「翌週まで観察しない」の理由ではない。

総合解説：「翌週まで観察しない」は不適切である。理由は、急性血流障害では時間経過により組織障害が進む可能性がある。この論点での適切な判断は「固定による血流障害を疑い、直ちに固定状態と末梢循環を再評価する」である。

JS02-PDF-107

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：血管損傷・骨盤骨折の出血リスクを理解する】「大量出血によるショック」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨盤骨折との直接的関連はない。
- イ. 骨盤骨折の代表的全身合併症ではない。
- ウ. 胸部外傷を合併すれば起こり得るが骨盤骨折固有ではない。
- エ. 高エネルギー骨盤骨折では大量出血を伴い、循環性ショックに至ることがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず生じる網膜剥離」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「必ず生じる末梢性顔面神経麻痺」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず生じる気胸」に関する内容で、今回の「大量出血によるショック」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「大量出血によるショック」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「大量出血によるショック」が適切である。根拠は、高エネルギー骨盤骨折では大量出血を伴い、循環性ショックに至ることがある。

JS02-PDF-108

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：血管損傷・急性虚血の主要徴候を統合する】実習生が「発赤・温感・脈拍増強だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所動脈血流障害の評価所見ではない。
- イ. 急性虚血を示す組合せではない。
- ウ. 炎症や充血を示す所見であり、典型的虚血所見とは異なる。
- エ. 急性虚血では疼痛、色調変化、冷感、脈拍低下に加え神経機能低下を伴い得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「食欲低下・咳・嘔声だけ」に関する内容で、今回の誤判断「発赤・温感・脈拍増強だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「身長低下・爪変形だけ」に関する内容で、今回の誤判断「発赤・温感・脈拍増強だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「発赤・温感・脈拍増強だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「疼痛・蒼白・冷感・脈拍低下・感覚運動障害」に関する内容で、今回の誤判断「発赤・温感・脈拍増強だけ」の理由ではない。

総合解説：「発赤・温感・脈拍増強だけ」は不適切である。理由は、炎症や充血を示す所見であり、典型的虚血所見とは異なる。この論点での適切な判断は「疼痛・蒼白・冷感・脈拍低下・感覚運動障害」である。

JS02-PDF-109

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：血管損傷・脈拍評価の限界を理解する】「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 脈拍が保たれる血管損傷もあり得る。
- イ. 単一指標ではなく総合評価が必要である。
- ウ. 末梢灌流評価では複数所見が重要である。
- エ. 末梢脈拍のみで重大血管損傷を完全に否定できない場合があり、皮膚色・温度・充満・神経所見などを総合する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「適切であり、脈拍があれば血管損傷は絶対はない」に関する内容で、今回の「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「不適切だが、今後も脈拍だけを追えば十分である」に関する内容で、今回の「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「適切であり、皮膚温は評価不要である」に関する内容で、今回の「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「不適切であり、側副血行などで脈拍が触れることもあるため他所見も評価する」が適切である。根拠は、末梢脈拍のみで重大血管損傷を完全に否定できない場合があり、皮膚色・温度・充満・神経所見などを総合する。

JS02-PDF-110

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：血管損傷・進行性出血を臨床所見から疑う】実習生が「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 血管損傷では持続出血により急速な腫脹・血腫形成を来すことがあり、循環状態も含めた再評価が必要である。
- イ. 神経血管・全身循環状態も重要である。
- ウ. 出血量増加やコンパートメント内圧上昇にも注意する。
- エ. 急速な腫脹は重篤な出血を示すことがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「進行する出血や血腫形成の可能性」に関する内容で、今回の誤判断「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折の有無だけを確認すればよい」に関する内容で、今回の誤判断「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「腫脹が増えるほど必ず治癒が良い」に関する内容で、今回の誤判断「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」の理由ではない。

総合解説：「血管損傷とは無関係なので循環評価は不要」は不適切である。理由は、出血量増加やコンパートメント内圧上昇にも注意する。この論点での適切な判断は「進行する出血や血腫形成の可能性」である。

JS02-PDF-111

2-4 合併症 > 血管損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：血管損傷・血管損傷時の優先対応を理解する】「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 血管障害の重症度評価が欠けている。
- イ. 症状は変化し得るため経時的再評価が必要である。
- ウ. 四肢虚血や大量出血は時間依存性が高く、局所・全身評価と迅速な医療連携が重要である。
- エ. 組織障害の進行を防ぐため迅速な対応が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「整復や固定の成否だけを確認する」に関する内容で、今回の「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「末梢脈拍を一度確認すればその後は不要」に関する内容で、今回の「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「強い虚血所見があっても長時間様子を見る」に関する内容で、今回の「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「患肢の神経血管状態と全身循環を確認し、緊急性が高ければ速やかに医療連携する」が適切である。根拠は、四肢虚血や大量出血は時間依存性が高く、局所・全身評価と迅速な医療連携が重要である。

JS02-PDF-112

2-4 合併症 > 感染 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：感染・感染徴候を早期に認識する】実習生が「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染を示す積極的所見ではない。
- イ. 感染を疑う代表的な局所所見ではない。
- ウ. 局所感染では炎症徴候が増悪し、膿性排液や全身症状を伴うこともある。
- エ. 順調な治癒を示す経過として考えやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「皮膚色も症状も全く変化しない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「可動域だけが改善する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「発赤・熱感・腫脹・疼痛の増悪」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「疼痛と腫脹が日ごとに軽減する」は不適切である。理由は、順調な治癒を示す経過として考えやすい。この論点での適切な判断は「発赤・熱感・腫脹・疼痛の増悪」である。

JS02-PDF-113

2-4 合併症 > 感染 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：感染・開放骨折と感染リスクの関係を理解する】「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 開放骨折では外界との交通により細菌汚染の機会が増え、感染リスクが高い。
- イ. 開放骨折でも出血は起こり得る。
- ウ. 開放骨折では軟部組織・血管・神経など多様な損傷を伴い得る。
- エ. それは閉鎖骨折の説明である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「出血が絶対に起こらないため」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず神経だけが損傷するため」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「骨が皮膚内に完全に閉鎖されているため」に関する内容で、今回の「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨折部が創を介して外界と交通し、汚染される可能性があるため」が適切である。根拠は、開放骨折では外界との交通により細菌汚染の機会が増え、感染リスクが高い。

JS02-PDF-114

2-4 合併症 > 感染 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：感染・開放骨折の初期対応を理解する】実習生が「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷悪化と感染拡大の危険がある。
- イ. 感染・出血・組織損傷のリスクがある。
- ウ. 汚染や組織損傷を悪化させる危険がある。
- エ. 汚染拡大を避けて創を保護し、開放骨折として適切な医療処置につなぐ。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「創の状態を記録せず強く揉む」に関する内容で、今回の誤判断「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「創を開放したまま長時間運動させる」に関する内容で、今回の誤判断「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「創を清潔な被覆材で保護し、不必要に創内を触らず速やかに医療連携する」に関する内容で、今回の誤判断「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」の理由ではない。

総合解説：「突出した骨片を素手で繰り返し押し戻す」は不適切である。理由は、汚染や組織損傷を悪化させる危険がある。この論点での適切な判断は「創を清潔な被覆材で保護し、不必要に創内を触らず速やかに医療連携する」である。

JS02-PDF-115

2-4 合併症 > 感染 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：感染・膿性排泄物の臨床的意味を理解する】「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 膿性排泄物は感染を疑うべき所見である。
- イ. 排泄後も感染が残存・拡大している可能性がある。
- ウ. 膿性排泄物は感染を示唆する重要所見で、局所だけでなく発熱など全身所見も確認する。
- エ. 適切な評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「正常な治癒過程なので必ず放置する」に関する内容で、今回の「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「膿が出れば感染は治癒したと判断する」に関する内容で、今回の「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「感染とは無関係なので創を強く圧迫する」に関する内容で、今回の「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「感染の可能性を高く考え、全身状態も含めて医療評価につなげる」が適切である。根拠は、膿性排泄物は感染を示唆する重要所見で、局所だけでなく発熱など全身所見も確認する。

JS02-PDF-116

2-4 合併症 > 感染 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：感染・感染性関節病態を疑う所見を理解する】実習生が「単純な筋疲労だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 感染など重大病態を除外する必要がある。
- イ. 関節の急激な炎症所見と発熱は感染性関節炎などを疑う重要な組合せであり、迅速な医療評価が必要である。
- ウ. 感染では発熱を伴うことがある。
- エ. 発熱を伴う強い関節炎症所見は筋疲労だけでは説明しにくい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必ず正常な運動後反応」に関する内容で、今回の誤判断「単純な筋疲労だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「関節感染を含む重篤な炎症性病態」に関する内容で、今回の誤判断「単純な筋疲労だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「感染は発熱を伴わないため否定できる」に関する内容で、今回の誤判断「単純な筋疲労だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「単純な筋疲労だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「単純な筋疲労だけ」は不適切である。理由は、発熱を伴う強い関節炎症所見は筋疲労だけでは説明しにくい。この論点での適切な判断は「関節感染を含む重篤な炎症性病態」である。

JS02-PDF-117

2-4 合併症 > 感染 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：感染・基本的感染予防策を理解する】「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 病原体伝播の原因となる。
- イ. 感染予防では清潔操作と汚染管理が重要である。
- ウ. 感染予防の基本は標準的な衛生操作と清潔管理である。
- エ. 交差感染の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「創に触れた後も手指衛生を行わない」に関する内容で、今回の「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「使用物品の清潔・汚染を区別しない」に関する内容で、今回の「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「同じ汚染物品を複数患者で使い回す」に関する内容で、今回の「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「手指衛生と清潔な器材・創処置を徹底する」が適切である。根拠は、感染予防の基本は標準的な衛生操作と清潔管理である。

JS02-PDF-118

2-4 合併症 > 感染 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：感染・固定中の感染・皮膚障害を認識する】実習生が「固定除去まで一切確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 固定下では皮膚状態が見えにくく、悪臭や浸出液は皮膚障害・感染の警告所見となる。
- イ. 圧迫と皮膚障害を悪化させる可能性がある。
- ウ. 皮膚障害や感染の可能性はある。
- エ. 警告所見があれば早期再評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「固定内の皮膚障害や感染を疑い、早期に固定を含めて再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去まで一切確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「症状が強いほど固定を締める」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去まで一切確認しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「固定が正常に効いている証拠と判断する」に関する内容で、今回の誤判断「固定除去まで一切確認しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「固定除去まで一切確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「固定除去まで一切確認しない」は不適切である。理由は、警告所見があれば早期再評価が必要である。この論点での適切な判断は「固定内の皮膚障害や感染を疑い、早期に固定を含めて再評価する」である。

JS02-PDF-119

2-4 合併症 > 感染 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：感染・経過変化から感染を疑う】「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 改善後の疼痛再増悪と発熱は感染など新たな問題を示す可能性がある。

イ. 全身症状は感染重症度の判断に重要である。

ウ. 経過の逆転は合併症を疑うべき所見である。

エ. 感染は経過中に顕在化することがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「疼痛だけをみて発熱は無視する」に関する内容で、今回の「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「治癒が順調な証拠なので評価しない」に関する内容で、今回の「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「感染の可能性は受傷当日しかない」に関する内容で、今回の「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「二次感染など経過中の合併症を疑い、再評価する」が適切である。根拠は、改善後の疼痛再増悪と発熱は感染など新たな問題を示す可能性がある。

JS02-PDF-120

2-4 合併症 > 感染 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：感染・感染疑い時の禁忌的対応を理解する】実習生が「局所と全身の状態を確認する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. ではない。経時変化の把握に有用である。

イ. 感染が疑われる部位への強い刺激は不適切であり、重症化を避けるため医療評価を優先する。

ウ. ではない。感染評価では局所徴候と発熱など全身所見を確認する。

エ. ではない。感染疑いでは適切な医療連携が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「経過と創の状態を記録する」に関する内容で、今回の誤判断「局所と全身の状態を確認する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「発赤・腫脹・発熱が増悪しても強い徒手刺激を続ける」に関する内容で、今回の誤判断「局所と全身の状態を確認する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「局所と全身の状態を確認する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「必要に応じて医療機関へつなぐ」に関する内容で、今回の誤判断「局所と全身の状態を確認する」の理由ではない。

総合解説：「局所と全身の状態を確認する」は不適切である。理由は、ではない。感染評価では局所徴候と発熱など全身所見を確認する。この論点での適切な判断は「発赤・腫脹・発熱が増悪しても強い徒手刺激を続ける」である。

JS02-PDF-121

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・骨折固有症状と一般症状を区別する】「本来動かない部位での異常可動性」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折に限られない一般外傷症状である。
- イ. 多くの外傷で共通する。
- ウ. 異常可動性は骨折固有症状の一つである。ただし確認目的に無理に誘発してはならない。
- エ. 打撲や捻挫でもみられる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「皮下出血」に関する内容で、今回の「本来動かない部位での異常可動性」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛」に関する内容で、今回の「本来動かない部位での異常可動性」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「本来動かない部位での異常可動性」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「腫脹」に関する内容で、今回の「本来動かない部位での異常可動性」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「本来動かない部位での異常可動性」が適切である。根拠は、異常可動性は骨折固有症状の一つである。ただし確認目的に無理に誘発してはならない。

JS02-PDF-122

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・変形の有無だけで骨折を除外しない】実習生が「疼痛があれば画像評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折疑いでは必要に応じ画像検査で確認する。
- イ. 骨折の有無は変形だけでは判断できない。
- ウ. 転位の少ない骨折や不全骨折では明らかな変形がないことがある。
- エ. 腫脹は骨折・捻挫・打撲などにもみられる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛があれば画像評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「変形がなければ骨折は絶対にない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「変形がなくても骨折は否定できない」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「腫脹があれば必ず脱臼である」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

総合解説：「疼痛があれば画像評価は不要である」は不適切である。理由は、骨折疑いでは必要に応じ画像検査で確認する。この論点での適切な判断は「変形がなくても骨折は否定できない」である。

JS02-PDF-123

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・骨性圧痛から骨折を疑う】「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷悪化の危険がある。

イ. 骨折では局所圧痛が一般的にみられる。

ウ. 骨折を除外できない。

エ. 骨性圧痛と荷重痛は骨折を疑う所見であり、臨床所見だけで除外せず画像確認を考える。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「痛みがあっても競技を続行させる」に関する内容で、今回の「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折は圧痛を生じない」に関する内容で、今回の「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず単純な打撲と判断する」に関する内容で、今回の「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「骨折の可能性を考え、必要に応じ画像評価へつなげる」が適切である。根拠は、骨性圧痛と荷重痛は骨折を疑う所見であり、臨床所見だけで除外せず画像確認を考える。

JS02-PDF-124

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・疲労骨折と急性骨折を区別する】実習生が「必ず一回の強大外力で生じる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 疲労骨折は一回の強大外力ではなく、反復する比較的小さな負荷の蓄積で生じ得る。

イ. これは外傷性骨折の典型機序である。

ウ. 多くは閉鎖性である。

エ. 正常骨でも反復負荷で発生し得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「正常骨に反復負荷が加わって生じることがある」に関する内容で、今回の誤判断「必ず一回の強大外力で生じる」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「必ず一回の強大外力で生じる」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「必ず開放創を伴う」に関する内容で、今回の誤判断「必ず一回の強大外力で生じる」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨が脆弱化している場合にだけ生じる」に関する内容で、今回の誤判断「必ず一回の強大外力で生じる」の理由ではない。

総合解説：「必ず一回の強大外力で生じる」は不適切である。理由は、これは外傷性骨折の典型機序である。この論点での適切な判断は「正常骨に反復負荷が加わって生じることがある」である。

JS02-PDF-125

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・病的骨折の機序を理解する】「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腫瘍などで骨強度が低下している場合、通常なら骨折しない程度の外力でも骨折し得る。
- イ. 病的骨折も骨の連続性が破綻した骨折である。
- ウ. それは疲労骨折の説明である。
- エ. 発生状況は限定されない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨折ではなく靱帯損傷の一種である」に関する内容で、今回の「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正常骨への反復負荷だけで起こる骨折である」に関する内容で、今回の「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ずスポーツ活動中に起こる」に関する内容で、今回の「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨自体が脆弱化していると比較的軽い外力でも生じ得る」が適切である。根拠は、腫瘍などで骨強度が低下している場合、通常なら骨折しない程度の外力でも骨折し得る。

JS02-PDF-126

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・小児骨折の特性を理解する】実習生が「小児では疼痛が一切ないため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 小児にも骨折は起こる。
- イ. 小児骨は成長軟骨板や柔軟性を有し、若木骨折など成人とは異なる骨折形態を呈する。
- ウ. 閉鎖骨折も多い。
- エ. 疼痛や腫脹を伴うことがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「小児では骨折が起こらないため」に関する内容で、今回の誤判断「小児では疼痛が一切ないため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「成長軟骨板の損傷や不全骨折など、成人と異なる損傷形態があるため」に関する内容で、今回の誤判断「小児では疼痛が一切ないため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「小児骨折はすべて開放骨折だから」に関する内容で、今回の誤判断「小児では疼痛が一切ないため」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「小児では疼痛が一切ないため」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「小児では疼痛が一切ないため」は不適切である。理由は、疼痛や腫脹を伴うことがある。この論点での適切な判断は「成長軟骨板の損傷や不全骨折など、成人と異なる損傷形態があるため」である。

JS02-PDF-127

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・骨折と捻挫を総合的に鑑別する】「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折でも腫脹する。
- イ. 荷重可能な骨折も存在する。
- ウ. 症状の重なりが大きいため単一所見ではなく、病歴と診察、必要な画像を組み合わせる。
- エ. 複合損傷もあり得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腫脹があれば必ず捻挫である」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「歩ければ骨折は絶対でない」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「靱帯圧痛があれば骨折は完全に否定できる」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「受傷機転、骨性圧痛、腫脹、機能障害を統合し、骨折疑いなら画像評価を考える」が適切である。根拠は、症状の重なりが大きいため単一所見ではなく、病歴と診察、必要な画像を組み合わせる。

JS02-PDF-128

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・高齢者骨折を見逃さない】実習生が「骨折は若年者にしか起こらない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 高齢者では骨粗鬆症により骨折リスクが高い。
- イ. 高齢者の転倒後の股関節周囲痛と歩行困難では近位大腿骨骨折などを考え、慎重に扱う。
- ウ. 骨折があれば転位を悪化させる可能性がある。
- エ. 重篤な骨折を見逃す危険がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨折は若年者にしか起こらない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「骨折を疑い、無理な歩行や強い徒手操作を避けて画像評価につなげる」に関する内容で、今回の誤判断「骨折は若年者にしか起こらない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛みが強いほど歩行訓練を繰り返す」に関する内容で、今回の誤判断「骨折は若年者にしか起こらない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「歩けないのは心理的問題と決めつける」に関する内容で、今回の誤判断「骨折は若年者にしか起こらない」の理由ではない。

総合解説：「骨折は若年者にしか起こらない」は不適切である。理由は、高齢者では骨粗鬆症により骨折リスクが高い。この論点での適切な判断は「骨折を疑い、無理な歩行や強い徒手操作を避けて画像評価につなげる」である。

JS02-PDF-129

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・骨折と打撲の共通症状を理解する】「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折でも皮下出血はみられる。
- イ. 疼痛や腫脹だけでは区別できず、局所解剖と受傷機転、必要な画像を組み合わせる。
- ウ. 打撲でも腫脹する。
- エ. 疼痛強度には個人差があり、単独では確定できない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「皮下出血があれば必ず打撲である」に関する内容で、今回の「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「腫脹があれば必ず骨折である」に関する内容で、今回の「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「痛みの強さだけで確定診断できる」に関する内容で、今回の「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「どちらも疼痛・腫脹を来し得るため、骨性圧痛や機能障害などを含めて評価する」が適切である。根拠は、疼痛や腫脹だけでは区別できず、局所解剖と受傷機転、必要な画像を組み合わせる。

JS02-PDF-130

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・画像陰性でも骨折を疑う状況を理解する】実習生が「画像より患者の訴えは常に無意味である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 診断は病歴・診察・画像を統合して行う。
- イ. 骨折によっては初期画像で明瞭でないことがあり、臨床所見が強ければ再評価が必要になる。
- ウ. 初期に描出されにくい骨折もある。
- エ. 骨折の見逃しで悪化する可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「画像より患者の訴えは常に無意味である」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「潜在性骨折などを完全には否定せず、症状に応じて再評価を考える」に関する内容で、今回の誤判断「画像より患者の訴えは常に無意味である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「X線で見えなければ骨折は絶対にない」に関する内容で、今回の誤判断「画像より患者の訴えは常に無意味である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「症状が強くても直ちに競技復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「画像より患者の訴えは常に無意味である」の理由ではない。

総合解説：「画像より患者の訴えは常に無意味である」は不適切である。理由は、診断は病歴・診察・画像を統合して行う。この論点での適切な判断は「潜在性骨折などを完全には否定せず、症状に応じて再評価を考える」である。

JS02-PDF-131

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：骨折鑑別・剥離骨折と軟部損傷を鑑別する】「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 強い牽引力で腱・靱帯付着部の骨が剥がれることがあり、軟部組織損傷だけとは限らない。
- イ. 成長期などでは剥離骨折の可能性を考えやすい。
- ウ. X線などは骨性病変の確認に有用である。
- エ. 付着部剥離骨折を伴うことがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「年齢や受傷機転は鑑別に不要である」に関する内容で、今回の「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「画像検査は骨片の有無を評価できない」に関する内容で、今回の「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腱・靱帯が痛ければ骨損傷は絶対はない」に関する内容で、今回の「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「付着部の骨性圧痛や受傷機転を確認し、必要に応じ画像で骨片を評価する」が適切である。根拠は、強い牽引力で腱・靱帯付着部の骨が剥がれることがあり、軟部組織損傷だけとは限らない。

JS02-PDF-132

2-5 鑑別 > 骨折鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：骨折鑑別・骨折疑い時の安全な診察を理解する】実習生が「必要に応じ画像評価につなげる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. ではない。損傷機序の推定に重要である。
- イ. ではない。骨折確定には画像診断が重要である。
- ウ. ではない。合併損傷の評価に重要である。
- エ. 異常可動性や軋轢音を意図的に誘発すると二次損傷を起こす危険がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「受傷機転を聴取する」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価につなげる」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「必要に応じ画像評価につなげる」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経・血管所見を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価につなげる」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折固有症状を確認するため患部を繰り返し強く動かす」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価につなげる」の理由ではない。

総合解説：「必要に応じ画像評価につなげる」は不適切である。理由は、ではない。骨折確定には画像診断が重要である。この論点での適切な判断は「骨折固有症状を確認するため患部を繰り返し強く動かす」である。

JS02-PDF-133

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：脱臼鑑別・脱臼の基本定義を理解する】「関節面の正常な位置関係が失われた状態」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. これは筋損傷である。
- イ. これは骨折の説明である。
- ウ. 末梢神経損傷の説明である。
- エ. 脱臼では関節を構成する関節面の位置関係が正常から逸脱する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「筋線維だけが断裂した状態」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「骨の連続性が必ず断たれた状態」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「神経伝導だけが障害された状態」に関する内容で、今回の「関節面の正常な位置関係が失われた状態」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「関節面の正常な位置関係が失われた状態」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「関節面の正常な位置関係が失われた状態」が適切である。根拠は、脱臼では関節を構成する関節面の位置関係が正常から逸脱する。

JS02-PDF-134

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：脱臼鑑別・脱臼の視診所見を理解する】実習生が「皮下出血が全くないこと」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所脱臼の鑑別所見ではない。
- イ. 皮下出血の有無だけでは脱臼を判断できない。
- ウ. 脱臼では正常な関節輪郭が失われ、特有の変形や肢位を呈することがある。
- エ. 脱臼を示す特徴的所見ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「身長が低下すること」に関する内容で、今回の誤判断「皮下出血が全くないこと」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「皮下出血が全くないこと」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「関節輪郭の消失や明らかな変形」に関する内容で、今回の誤判断「皮下出血が全くないこと」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「皮膚温が左右同じであること」に関する内容で、今回の誤判断「皮下出血が全くないこと」の理由ではない。

総合解説：「皮下出血が全くないこと」は不適切である。理由は、皮下出血の有無だけでは脱臼を判断できない。この論点での適切な判断は「関節輪郭の消失や明らかな変形」である。

JS02-PDF-135

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：脱臼鑑別・弾発性固定を理解する】「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 脱臼では関節包や筋緊張などにより特有の弾発性固定がみられることがある。

イ. 神経障害の説明であり弾発性固定ではない。

ウ. これは骨折固有症状の説明である。

エ. 脱臼ではむしろ運動制限・固定感を呈することがある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「皮膚感覚だけが消失すること」に関する内容で、今回の「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折部で異常可動性が生じること」に関する内容で、今回の「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「関節が全方向へ完全に自由に動く」に関する内容で、今回の「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「他動的に動かそうとしても一定位置へ戻ろうとする抵抗感がある」が適切である。根拠は、脱臼では関節包や筋緊張などにより特有の弾発性固定がみられることがある。

JS02-PDF-136

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：脱臼鑑別・脱臼と骨折を安全に鑑別する】実習生が「末梢神経評価は不要とする」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨折合併などを見逃す可能性がある。

イ. 二次損傷を招く危険がある。

ウ. 肩関節脱臼では神経障害を伴うことがある。

エ. 両者は疼痛や腫脹が重なり、骨折を合併することもあるため総合評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「外観だけで必ず判定する」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経評価は不要とする」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「強く回旋して軋轢音を出す」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経評価は不要とする」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「末梢神経評価は不要とする」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「受傷機転・変形・圧痛・可動性を評価し、必要に応じ画像で確認する」に関する内容で、今回の誤判断「末梢神経評価は不要とする」の理由ではない。

総合解説：「末梢神経評価は不要とする」は不適切である。理由は、肩関節脱臼では神経障害を伴うことがある。この論点での適切な判断は「受傷機転・変形・圧痛・可動性を評価し、必要に応じ画像で確認する」である。

JS02-PDF-137

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：脱臼鑑別・脱臼に伴う神経血管障害を理解する】「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 整復後も必ず再評価する。
- イ. 脱臼は神経血管を圧迫・牽引することがあり、整復前後の所見記録が重要である。
- ウ. 必要に応じ画像評価が必要である。
- エ. 重度脱臼では血管障害も起こり得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「整復後の評価を省略するため」に関する内容で、今回の「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「関節面の位置を触診だけで完全に確定するため」に関する内容で、今回の「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「脱臼では血管障害が起こらないため」に関する内容で、今回の「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「脱臼そのものによる障害と整復後の変化を比較するため」が適切である。根拠は、脱臼は神経血管を圧迫・牽引することがあり、整復前後の所見記録が重要である。

JS02-PDF-138

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：脱臼鑑別・完全脱臼と亜脱臼を区別する】実習生が「必ず開放創を伴う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 亜脱臼は閉鎖性でも生じる。
- イ. 筋損傷とは異なる。
- ウ. 完全脱臼と異なり、関節面の接触が完全には失われていない。
- エ. 骨折の説明である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず開放創を伴う」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「筋断裂と同義である」に関する内容で、今回の誤判断「必ず開放創を伴う」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節面の接触が一部残ったまま位置関係がずれた状態をいう」に関する内容で、今回の誤判断「必ず開放創を伴う」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨の連続性が完全に断たれた状態をいう」に関する内容で、今回の誤判断「必ず開放創を伴う」の理由ではない。

総合解説：「必ず開放創を伴う」は不適切である。理由は、亜脱臼は閉鎖性でも生じる。この論点での適切な判断は「関節面の接触が一部残ったまま位置関係がずれた状態をいう」である。

JS02-PDF-139

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：脱臼鑑別・反復性脱臼の既往を問診で把握する】「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 反復性脱臼の評価には関係しない。
- イ. 既往脱臼は反復性脱臼の重要な背景であり、再発状況を確認する。
- ウ. 脱臼再発の直接情報にはならない。
- エ. 肩関節不安定性の評価とは無関係である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「手指の爪の長さだけ」に関する内容で、今回の「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「食事回数だけ」に関する内容で、今回の「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「左右の視力差だけ」に関する内容で、今回の「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「過去に同じ肩の脱臼歴があり、軽い外力でも再発しているか」が適切である。根拠は、既往脱臼は反復性脱臼の重要な背景であり、再発状況を確認する。

JS02-PDF-140

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：脱臼鑑別・小児脱臼で骨折合併を考慮する】実習生が「変形があれば画像評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 疼痛だけでは鑑別できない。
- イ. 小児では骨・成長軟骨の損傷を併発し得るため、鑑別と安全な評価が重要である。
- ウ. いずれも起こり得る。
- エ. 骨折合併の確認などに画像が有用である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「痛みがあれば必ず単純脱臼である」に関する内容で、今回の誤判断「変形があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折や成長軟骨損傷を伴うことがあるため、成人と同じ感覚で強い整復操作をしない」に関する内容で、今回の誤判断「変形があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「小児では脱臼も骨折も起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「変形があれば画像評価は不要である」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「変形があれば画像評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「変形があれば画像評価は不要である」は不適切である。理由は、骨折合併の確認などに画像が有用である。この論点での適切な判断は「骨折や成長軟骨損傷を伴うことがあるため、成人と同じ感覚で強い整復操作をしない」である。

JS02-PDF-141

2-5 鑑別 > 脱臼鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：脱臼鑑別・脱臼に伴う血管損傷を見逃さない】「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経血管合併症は重要である。
- イ. 血流障害が疑われる場合は緊急対応を優先する。
- ウ. 脱臼で血管が圧迫・損傷されている可能性があり、四肢虚血を放置してはならない。
- エ. 虚血の警告所見である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「脱臼だけの問題なので血管評価は不要である」に関する内容で、今回の「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「まず長時間の運動療法を行う」に関する内容で、今回の「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「脈拍低下は正常な脱臼所見なので放置する」に関する内容で、今回の「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「脱臼に伴う血管障害を疑い、緊急性を考慮して速やかに医療連携する」が適切である。根拠は、脱臼で血管が圧迫・損傷されている可能性があり、四肢虚血を放置してはならない。

JS02-PDF-142

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・筋損傷と骨・関節損傷を区別する】実習生が「末梢脈拍の消失」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 血管障害を疑う所見である。
- イ. 脱臼を示唆する。
- ウ. 収縮性組織である筋・腱の損傷では、抵抗運動で疼痛や筋力低下がみられやすい。
- エ. 骨折固有症状である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「末梢脈拍の消失」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「関節面の明らかな位置異常」に関する内容で、今回の誤判断「末梢脈拍の消失」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「抵抗を加えた筋収縮で疼痛が誘発・増悪する」に関する内容で、今回の誤判断「末梢脈拍の消失」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折部の異常可動性」に関する内容で、今回の誤判断「末梢脈拍の消失」の理由ではない。

総合解説：「末梢脈拍の消失」は不適切である。理由は、血管障害を疑う所見である。この論点での適切な判断は「抵抗を加えた筋収縮で疼痛が誘発・増悪する」である。

JS02-PDF-143

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・靱帯損傷の機能所見を理解する】「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 靱帯は関節安定性を担うため、適切なストレステストで疼痛や弛緩性がみられ得る。
- イ. 神経障害の所見である。
- ウ. これは骨折固有症状である。
- エ. 靱帯損傷の特徴を示していない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「皮膚感覚の消失だけが起る」に関する内容で、今回の「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨性異常可動性が必ずみられる」に関する内容で、今回の「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「筋収縮を全く行わなくても必ず筋力低下だけが出る」に関する内容で、今回の「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」の根拠ではない。
総合解説：この論点では「損傷靱帯に対応したストレスで疼痛や不安定性が増える」が適切である。根拠は、靱帯は関節安定性を担うため、適切なストレステストで疼痛や弛緩性がみられ得る。

JS02-PDF-144

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・腱断裂の機能障害を理解する】実習生が「他動運動だけが必ず完全消失する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腱断裂では他動可動域が保たれることもある。
- イ. 腱断裂と脱臼は別の損傷である。
- ウ. 血管損傷がなければ脈拍は保たれる。
- エ. 腱は筋力を骨へ伝えるため、完全断裂では対応する能動運動が大きく障害され得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「他動運動だけが必ず完全消失する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「関節面が必ず脱臼する」に関する内容で、今回の誤判断「他動運動だけが必ず完全消失する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢脈拍が必ず消失する」に関する内容で、今回の誤判断「他動運動だけが必ず完全消失する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「対応する筋収縮による関節運動が著しく低下する」に関する内容で、今回の誤判断「他動運動だけが必ず完全消失する」の理由ではない。

総合解説：「他動運動だけが必ず完全消失する」は不適切である。理由は、腱断裂では他動可動域が保たれることもある。この論点での適切な判断は「対応する筋収縮による関節運動が著しく低下する」である。

JS02-PDF-145

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・自動・他動運動の差から腱板損傷を疑う】「腱板損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 血流障害では冷感・蒼白・脈拍低下などが中心となる。
- イ. 完全脱臼では明らかな変形と著しい運動制限がみられることが多い。
- ウ. 下肢の神経障害である。
- エ. 腱板損傷では自動運動時の筋力低下や疼痛が目立つ一方、関節拘縮が強くなれば他動可動域は比較的保たれることがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「上腕動脈完全閉塞だけ」に関する内容で、今回の「腱板損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節完全脱臼だけ」に関する内容で、今回の「腱板損傷」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「腓骨神経麻痺」に関する内容で、今回の「腱板損傷」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「腱板損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「腱板損傷」が適切である。根拠は、腱板損傷では自動運動時の筋力低下や疼痛が目立つ一方、関節拘縮が強くなれば他動可動域は比較的保たれることがある。

JS02-PDF-146

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・捻挫と骨折を安全に鑑別する】実習生が「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 複合損傷や骨折を見逃す可能性がある。
- イ. 骨折でも腫脹する。
- ウ. 足関節外傷では捻挫と骨折の症状が重なるため、骨性所見と機能を含めて評価する。
- エ. 歩行可能な骨折もあり得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「腫脹があれば捻挫と確定する」に関する内容で、今回の誤判断「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「靱帯部圧痛だけでなく骨性圧痛と荷重能力も確認し、骨折疑いなら画像評価を考える」に関する内容で、今回の誤判断「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「歩ければ骨折は絶対はない」に関する内容で、今回の誤判断「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」の理由ではない。

総合解説：「靱帯圧痛があれば骨性圧痛は調べない」は不適切である。理由は、複合損傷や骨折を見逃す可能性がある。この論点での適切な判断は「靱帯部圧痛だけでなく骨性圧痛と荷重能力も確認し、骨折疑いなら画像評価を考える」である。

JS02-PDF-147

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・腱鞘炎と骨・神経損傷を区別する】「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 尺骨神経障害などを考える所見である。

イ. 骨折を示唆する危険所見である。

ウ. 関節脱臼を考える。

エ. ドケルバン病では長母指外転筋腱・短母指伸筋腱の腱鞘部に疼痛・腫脹がみられ、母指運動で増悪する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「小指側だけの感覚消失」に関する内容で、今回の「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨遠位部の骨性異常可動性」に関する内容で、今回の「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節の明らかな脱臼変形」に関する内容で、今回の「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「母指運動で手関節母指側の腱鞘部痛が増悪する」が適切である。根拠は、ドケルバン病では長母指外転筋腱・短母指伸筋腱の腱鞘部に疼痛・腫脹がみられ、母指運動で増悪する。

JS02-PDF-148

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・高度筋・腱損傷の所見を理解する】実習生が「骨折が必ずないと断定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 損傷を悪化させる可能性がある。

イ. 受傷機転によっては骨損傷の評価も必要である。

ウ. 陥凹や著明な筋力低下は完全断裂など高度損傷を示す可能性がある。

エ. 高度損傷の可能性を見逃す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛があっても最大抵抗運動を繰り返す」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ずないと断定する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「骨折が必ずないと断定する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「筋・腱の高度断裂を疑い、損傷程度を評価する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ずないと断定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「軽い筋疲労だけと断定する」に関する内容で、今回の誤判断「骨折が必ずないと断定する」の理由ではない。

総合解説：「骨折が必ずないと断定する」は不適切である。理由は、受傷機転によっては骨損傷の評価も必要である。この論点での適切な判断は「筋・腱の高度断裂を疑い、損傷程度を評価する」である。

JS02-PDF-149

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・軟部損傷と神経損傷を鑑別する】「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経症状を見逃す危険がある。
- イ. 圧迫や牽引による神経障害を合併することがある。
- ウ. しびれは神経損傷を示す可能性があり、筋損傷だけと決めつけず神経評価を行う。
- エ. 原因評価前の強い刺激は不適切である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「筋肉痛なら感覚検査は不要である」に関する内容で、今回の「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「しびれは軟部損傷とは無関係なので無視する」に関する内容で、今回の「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「疼痛部位だけを強く揉む」に関する内容で、今回の「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末梢神経の感覚領域と支配筋機能」が適切である。根拠は、しびれは神経損傷を示す可能性があり、筋損傷だけと決めつけず神経評価を行う。

JS02-PDF-150

2-5 鑑別 > 軟部損傷鑑別 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：軟部損傷鑑別・軟部損傷を系統的に鑑別する】実習生が「画像がなければ一切評価できない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 触診・機能検査などを統合する必要がある。
- イ. 筋・腱・靱帯・関節包などは機能が異なるため、複数の診察所見を組み合わせる責任組織を推定する。
- ウ. 疼痛強度だけでは損傷組織を特定できない。
- エ. 病歴と身体所見は重要で、必要に応じ画像を追加する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「視診だけで全ての軟部損傷を確定する」に関する内容で、今回の誤判断「画像がなければ一切評価できない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「受傷機転、圧痛部位、自動・他動・抵抗運動、関節安定性を組み合わせる」に関する内容で、今回の誤判断「画像がなければ一切評価できない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛の強さ一つだけで組織を決める」に関する内容で、今回の誤判断「画像がなければ一切評価できない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「画像がなければ一切評価できない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「画像がなければ一切評価できない」は不適切である。理由は、病歴と身体所見は重要で、必要に応じ画像を追加する。この論点での適切な判断は「受傷機転、圧痛部位、自動・他動・抵抗運動、関節安定性を組み合わせる」である。